

《研 究》

わが国におけるバランスト・スコアカード研究の動向
：欧米での蓄積状況を踏まえて河 合 隆 治
乙 政 佐 吉

- I はじめに：本稿の目的
- II BSC 概念の変遷
- III 文献分析の方法
- IV BSC 研究の推移
- V わが国 BSC 研究における研究内容の動向
- VI おわりに：わが国 BSC 研究の動向

I はじめに：本稿の目的

1992 年、Harvard Business School の Robert S. Kaplan 教授と、当時 Nolan Norton Institute の CEO であった David P. Norton との共著によって、バランスト・スコアカード (Balanced Scorecard；以下 BSC) に関する論文が、*Harvard Business Review* 誌において公表された。

BSC に関する論文が初めて公刊されて以降の 20 年以上のあいだに、BSC 提唱者である Kaplan と Norton 以外の研究者も数多くの BSC に関する研究を進めた。現在、BSC 研究は、欧米のみならずわが国においても、管理会計領域の主要テーマの一つとして位置づけられている。

しかしながら、BSC は、さまざまな研究者によって、多様な観点から研究されてきたため、現状において BSC 研究の蓄積状況について全体像を把握することは容易ではない。それゆえ、本稿では、BSC に関する研究論文を対象として実施した文献分析を通じて、わが国において蓄積されてきた BSC 研究の動向を、欧米での BSC 研究の蓄積状況を踏まえながら、概観する。本稿の目的は次の二つである。

一つは、論文数、研究方法、理論ベース、研究サイト、研究内容が経時的にどのように変遷しているのかについて、欧米での BSC 研究の蓄積状況との比較から考察することによって、わが国の BSC 研究の特徴を明らかにすることである。特に、何を研究課題として研究が実施されたのかに関わる、BSC の研究内容について、わが国と欧米との相違点に着目する。

二つは、河合・乙政（2012）において紙幅の関係上割愛したデータを追加的に提供することである。河合・乙政（2012）では、文献分析の調査対象とした BSC 論文に関する個々の情報や、フレームワークに基づいた研究内容の特徴を十分に示すことができなかった。研究の透明性を確保するために、本稿の補足資料として、個々の論文に対して筆者らが実施した文献分析上の分類結果、および、分析対象となった論文の全リストを提示する。

本稿の目的を達成するために、次節ではまず、BSC 提唱者による BSC に関する一連の研究を考察する。BSC の概念は一連の研究を通じて変容している。論文数、研究方法、理論ベース、研究サイト、研究内容の経時的な変遷を検討するに際して、BSC 自体の変遷についても考慮する必要がある。次いで第3節において、本稿で実施した文献分析の方法を述べた後、第4節および第5節にて、分析結果を提示する。

II BSC 概念の変遷

わが国における BSC 研究の動向を分析する上で、Kaplan と Norton との共著による BSC に関する一連の研究を考察する必要がある。実務と研究との融合を重視するイノベーション・アクションリサーチ（Kaplan, 1998¹）を通じて発刊される BSC 提唱者の著作ごとに、BSC の概念は変容しつつ、BSC の意味する内容が拡張しているからである²。

BSC 提唱者による著作を、内容に応じて経時的に分類すれば、大きく以下の四つの期に区分できると考える。

第1期の BSC は、Kaplan and Norton（1992；1993）において、財務指標と非財務指標とを併用した業績測定システムとして議論されている。実務と理論との乖離というレレバンス・ロスト（Johnson and Kaplan, 1987）が叫ばれる中で、Kaplan and Norton（1992）は、財務的指標のみに過度に依存するのではなく、非財務指標を併用した業績測定の必要性を主張するとともに、①財務的視点、②顧客の視点、③社内の視点、④革新と開発の視点、の四つの視点を有した BSC モデルを提示した。続く Kaplan and Norton（1993）においては、BSC の四つの視点に含まれる業績指標を、戦略的観点から選択する必要があることを主張している。

第2期の BSC は、Kaplan and Norton（1996 a, b）によって、事業戦略を確実に実行するためのシステムとして示されている。事業戦略の実現を図る上で、Kaplan and

1 イノベーション・アクションリサーチとは、実務への理論の導入・実践に研究者自らが深く介入しながら、理論モデル自体の進化を目指す方法論である（Kaplan, 1998）。

2 Kaplan と Norton による BSC 研究の変遷については他に、飯塚（1998）、河合（2001）、挽（2002）、西居（2011）を参照されたい。

Norton（1996 a, b）は、戦略と業績測定とを結びつける、業績指標間の関係性に着目した。つまり、学習と成長の視点に属する業績指標の向上が社内ビジネス・プロセスの視点に記載される業績指標を改善させながら、顧客の視点に属する業績指標の向上に結び付くとともに、最終的に財務的視点に掲げられる業績指標の目標達成を果たすという因果関係である。Kaplan and Norton（1996 a, b）は、因果関係モデルを中心とした戦略実行のためのシステムとして BSC をとらえている。

第3期では、Kaplan and Norton（2000；2001；2004 a, b）が、戦略策定における BSC の活用について論じている。Kaplan and Norton（2000；2001）では、戦略マップという新たなツールの紹介を通じて、戦略実行のみではなく戦略策定にも BSC を役立てる方法が提示された。加えて、Kaplan and Norton（2004 a, b）は、戦略マップをどのように構築するのかについて具体的な解説を行っている。

第4期の BSC は、Kaplan and Norton（2006；2008）によって、企業（全社）戦略の実行を支援するシステムとして記述されている。Kaplan and Norton（2006）は、個別部門の BSC を統合しながら、全社戦略との整合性をどのように図るかを示している。また、Kaplan and Norton（2008）では、BSC を通じてどのように全社戦略を管理していくのが明示されている。

以上の BSC 提唱者による著作の特徴に鑑みて、本稿では、わが国の BSC 研究の動向を検討する上で、BSC に関する論文が初めて公刊されて以降の約 20 年を、1992–1995 年（第1期）、1996–2000 年（第2期）、2001 年–2005 年（第3期）、2006 年–2010 年（第4期）の四つに分類しながら分析を進める。

Ⅲ 文献分析の方法³

本研究を進めるにあたって、書誌学的研究に関する先行文献（Shields, 1997；Hesford et al., 2007；加登他, 2010）を参照しつつ、BSC に関する文献分析を行った⁴。手順は次のとおりである。

最初に、1992 年から 2010 年までに公刊された、わが国主要会計雑誌 7 誌⁵（以下、

3 本節は、河合・乙政（2012）の文献分析の方法の項を加筆・修正している。本稿で実施する文献分析の手順、および、分析データは、河合・乙政（2012）と同一である。

4 同一ではないものの、本稿で用いられているデータの一部は加登（2012）の分析においても利用されている。

5 わが国主要会計雑誌として、『会計』『原価計算研究』『管理会計学』『会計プロGRESS』『メルコ管理会計研究』『産業経理』『企業会計』を挙げる。わが国においては、各大学の紀要が研究成果の発表の場として重要な大きな役割を果たしているものの、研究者間の知見共有への影響力に鑑みて、本稿では紀要に掲載された論文を研究対象としない。なお、研究者が学術雑誌にも実務雑誌にも論文を分け隔てなく投稿する点においてわが国と欧米とは異なるため、わが国主要会計雑誌については学術雑誌と実務雑誌の区分をしない。

「日本」), 欧米主要会計学術雑誌⁶ 10誌 (以下, 「欧米学術」), 欧米主要会計実務雑誌⁷ 3誌 (以下, 「欧米実務」) の全論文を対象として, ①Kaplan と Norton⁸ による BSC に関わる一連の著作⁹のいずれかを参考文献に挙げている論文, ないしは, タイトルに「BSC」を含めている論文を, 「広義の BSC 論文」として抽出した。

次に, 抽出した論文の中から, タイトルもしくはキーワードに「BSC」を含む論文, および, 著者らが BSC を研究していると判定した論文を, 本研究の分析対象となる「狭義の BSC 論文」として選別している。

「狭義の BSC 論文」を抽出するプロセスとしては, まず, 筆者ら二人が個別に, すべての「広義の BSC 論文」に対して BSC 論文であるか否かの判定を行った。次いで, 本研究の対象論文として妥当であるか否かを論文ごとに協議しながら, 最終的な「狭義の BSC 論文」を選定した。

最後に, ①発行年 (いつ発刊されたのか), ②理論ベース (どのような理論に依拠しているのか), ③研究方法 (どのような方法で行われたのか), ④研究サイト (どの業種を対象としたのか), ⑤研究内容 (何を考察することに主眼を置いているのか), の5項目それぞれにおいて設定したコードに基づいて, 個々の「狭義の BSC 論文」に対してコード分類を実施した。コード分類¹⁰についても, 筆者ら二人が個別に実施した後に, 協議を通じて最終的な分類を決定している。

-
- 6 *Accounting, Organizations and Society* (AOS); *Behavioral Research in Accounting* (BRIA); *Contemporary Accounting Research* (CAR); *Journal of Accounting and Economics* (JAE); *Journal of Accounting Literature* (JAL); *Journal of Accounting Research* (JAR); *Journal of Management Accounting Research* (JMAR); *Management Accounting Research* (MAR); *Review of Accounting Studies* (RAS); *The Accounting Review* (TAR) の10誌である。Hesford et al. (2007) も同様の10誌を対象としている。
 - 7 *Journal of Cost Management* (JCM); Institute Management Accountants 発行の *Management Accounting/Strategic Finance/Management Accounting Quarterly* (IMA (MA・SF・MAQ)); Chartered Institute of Management Accountants 発行の *Management Accounting/Financial Management* (CIMA (MA・FM)) の3誌である。欧米主要会計実務雑誌に関しては, 管理会計を主対象とした雑誌を選定した。なお, SF・MAQ は IMA 発行の MA の継続誌として1999年から, FM は CIMA 発行の MA の後継誌として2000年から発行されている。
 - 8 BSC 研究は, 経営戦略論, 人的資源管理論, 医療経営論といった隣接分野にも影響を与えているものの (ex. Boyett and Boyett, 1998; Becker et al., 2001; 高橋, 2011), 議論を拡散させないために, 本稿では管理会計領域における BSC 研究に焦点を絞る。
 - 9 上述の「BSC 概念の変遷」にてレビューを行った Kaplan and Norton (1992; 1993; 1996 a, b; 2000; 2001; 2004 a, b; 2006; 2008) の他にも, Kaplan と Norton との共著による BSC 関連論文を含めている。
 - 10 「狭義の BSC 論文」の選定や5項目におけるコードの振り分けに関して, 筆者らの主観が含まれていることを否定できない。それゆえ, 透明性を確保するために, 各項目の集計コード表 (補足資料①), 個々の「狭義の BSC 論文」に対する5項目のコード分類の結果 (補足資料②), および, 「狭義の BSC 論文」を含めた「広義の BSC 論文」に関する文献リスト (補足資料③) を, 本稿の文末に提示する。なお, 選定した「狭義の BSC 論文」およびコード分類の結果は, 河合・乙政 (2012) と同一である。

IV BSC 研究の推移

IV-1 論文数

第1表から第3表にはそれぞれ、「日本」「欧米学術」「欧米実務」について、雑誌ごとの対象論文（「狭義のBSC論文」）数の推移を、第2節にて述べた4期に区分した上で示している¹¹。なお、以下では、表中には、4期を各々、1992-1995、1996-2000、2001-2005、2006-2010と示すものの、本文においては、それぞれを第1期、第2期、第3期、第4期と記す¹²。

全体的にみると、わが国のBSC論文数は、第3期の57本をピークに減少傾向にあることが確認できる。「欧米実務」においても同様の傾向がみられた。一方で、「欧米学術」においては、第3期および第4期のBSC論文数がほぼ同数で推移している。

雑誌ごとにみれば、「日本」において、全体的傾向に反して『原価計算研究』や『産業経理』では、第3期と第4期とのBSC論文数の差はほとんどない。また、『管理会計学』ではわずかながらも増加傾向にある。

「欧米学術」に関しては、欧州系雑誌であるAOSやMARに、BSC論文の半数以上が集中している。MARを除けば、いずれの雑誌でも期間をまたがって大きな変動は見

第1表 雑誌ごとの論文数の推移（「日本」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
会計	0 0.0%	4 19.0%	12 57.1%	5 23.8%	21 100.0%
原価計算研究	0 0.0%	2 13.3%	7 46.7%	6 40.0%	15 100.0%
管理会計学	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
会計プロGRESS	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
メルコ管理会計研究	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
産業経理	0 0.0%	2 12.5%	7 43.8%	7 43.8%	16 100.0%
企業会計	0 0.0%	2 5.1%	30 76.9%	7 17.9%	39 100.0%
全体	0 0.0%	10 10.5%	57 60.0%	28 29.5%	95 100.0%

11 「狭義のBSC論文」数に関して、「日本」95本に比して「欧米学術」は47本と少なくなっているのは、「欧米学術」が「日本」よりもBSCに特化した研究を行っていないためである。「日本」「欧米学術」「欧米実務」それぞれの、「広義のBSC論文」数に対する「狭義のBSC論文」数の比率は、97/175（54.3%）、47/208（22.6%）、93/125（74.4%）となっている（河合・乙政、2012）。

12 なお、第4表を除いて、表中に示す比率は、同一項目内の比率（行ごとの構成比）である。同一期内の比率（列ごとの構成比）は、議論内容に応じて、本文中に適宜表示する。

第2表 雑誌ごとの論文数の推移 (「欧米学術」)

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
AOS	0 0.0%	0 0.0%	4 40.0%	6 60.0%	10 100.0%
BRIA	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	3 50.0%	6 100.0%
CAR	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
JAE	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
JAL	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
JAR	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%
JMAR	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	3 37.5%	8 100.0%
MAR	0 0.0%	3 20.0%	8 53.3%	4 26.7%	15 100.0%
RAS	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
TAR	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	5 100.0%
全体	0 0.0%	5 10.6%	22 46.8%	20 42.6%	47 100.0%

第3表 雑誌ごとの論文数の推移 (「欧米実務」)

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
JCM	2 6.1%	6 18.2%	16 48.5%	9 27.3%	33 100.0%
MA (USA)	0 0.0%	7 18.4%	23 60.5%	8 21.1%	38 100.0%
MA (UK)	2 9.1%	13 59.1%	5 22.7%	2 9.1%	22 100.0%
全体	4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%

当たらない。第3期と第4期とで全体の BSC 論文数が概ね同数であることは、BSC 論文を掲載する雑誌の分散によって生じている。

「欧米実務」については、JCM や MA (UK) には第1期から BSC 論文が掲載されている。他に、MA (UK) では、第2期をピークに BSC 論文数が減少傾向にある。

IV-2 BSC 提唱者による著作の引用

第4表には、対象とした BSC 論文において、BSC 提唱者による著作がどのように引用されているかをまとめている。

第1列の「著作引用」には、Kaplan and Norton (1992; 1993; 1996 a, b; 2000; 2001; 2004 a, b; 2006; 2008) のいずれかを引用している BSC 論文数および全体での

第4表 BSC 提唱者による著作の引用状況

	著作引用	第1期著作	第2期著作	第3期著作	第4期著作	網羅率平均
日本	83/95(87.2%)	30/95(31.6%)	50/95(52.6%)	61/85(71.8%)	3/28(10.7%)	49.6%
欧米学術	46/47(97.9%)	32/47(68.1%)	41/47(87.2%)	28/42(66.7%)	0/20(0.0%)	68.1%
欧米実務	57/93(61.3%)	23/93(24.7%)	36/89(40.4%)	16/63(25.4%)	0/19(0.0%)	31.3%

比率を示している。「欧米学術」においては、ほぼすべての論文で BSC 提唱者による著作のいずれかが引用されている。対して、「日本」や「欧米実務」では BSC 提唱者による著作を引用していない論文が見受けられる。特に、「欧米実務」に関しては、雑誌の編集方針も影響していると考えられる¹³とはいえ、40% 近くの論文が BSC 提唱者による著作を引用していない。

第2列から第5列に関しては、第2節の「BSC 概念の変遷」にて論じた区分に基づいて、BSC 論文がどの時期の BSC 提唱者による著作を引用しているのかを集計している。たとえば、「第3期著作」であれば、第3期に分類した Kaplan and Norton (2001 a, b; 2004 a, b) のいずれかを引用している BSC 論文数をカウントした上で、第3期以降に発刊された BSC 論文数で除すことによって比率を計算している。

第4表をみると、「欧米学術」や「欧米実務」においては、「第2期著作」に比率のピークがきている。「第1期著作」や「第2期著作」で相対的に高い比率を示す「欧米学術」では、BSC の原点となる業績測定システムや戦略実行のための BSC に研究の関心が向けられている。対して、「日本」の比率のピークは「第3期著作」にある。わが国においては、戦略策定にも活用される BSC への関心が高い。

なお、「第4期著作」を引用している BSC 論文が存在するのは「日本」のみである。とはいえ、本数は限られている。2010 年時点までの BSC 論文は、「第4期著作」をほとんど研究の対象とはしていない。

最後に、第6列の「網羅率平均」では、BSC 論文が発行された時点で参照可能な BSC 提唱者による著作をどの程度引用しているかを算出している。具体的には、第4期に発行された BSC 論文であれば、「第1期著作」から「第4期著作」まで参照可能であるため、各期の著作の引用の有無を「1」もしくは「0」で測定した上で、「（第1期著作）引用の有無＋（第2期著作）引用の有無＋（第3期著作）の引用の有無＋（第4期著作）の引用の有無」を発行時期の「4」で除すことによって、網羅率¹⁴を計算している。「網羅率平均」は、各 BSC 論文の網羅率の平均である。

13 IMA 発行の MA の継続誌である SF や、CIMA 発行の MA の後継誌である FM では、参考文献を表記する文献がほとんど見当たらない。

14 各期の BSC 論文の網羅率の値に関して、第1期は 0.0%、100.0%、第2期は 0.0%、50.0%、100.0%、第3期では、0.0%、33.3%、66.7%、100.0%、第4期において 0.0%、25.0%、50.0%、75.0%、100.0%、のいずれかになる。

「網羅率平均」に関して、「日本」「欧米学術」「欧米実務」を比較すると、「欧米学術」の値が最も高い。「欧米実務」は、そもそもの「著作引用」の比率が低いため、「網羅率平均」も低くなっている。字数制限のような雑誌の編集方針も影響していると想定できるものの、数字上、「欧米学術」が最も BSC 概念の変遷を踏まえた研究を行っていると考えられる。

IV-3 理論ベース

どのような理論に基づいて研究がなされているのかについて、「日本」「欧米学術」「欧米実務」における BSC 研究の理論ベースの推移をそれぞれ、第5表から第7表に提示した。

理論ベースは、「経済学（エージェンシー理論など）」「社会学（コンティンジェンシー理論・新制度派社会学など）」「心理学／行動科学（帰属理論など）」「複合（経済学・社会学・心理学／行動科学のうち2つ以上を併用）」「経済・社会・心理以外」に大別している。

BSC 研究の理論ベースに関して、「日本」では、「経済学」「社会学」「心理学」をベースにした研究はほとんどない。しかしながら、第4期において「心理学」および「複合」をベースにした研究がわずかながら見受けられる。「欧米実務」については、全期を通じて、「経済学」「社会学」「心理学」をベースにした研究が皆無である。

「欧米学術」は、BSC 論文が出現する第2期以降、多様な理論をベースに研究を蓄積している。「社会学」「複合」「経済・社会・心理以外」は第3期をピークに減少傾向にあるものの、「経済学」「心理学」をベースにした研究数は第3期から第4期にかけて増加している。

第5表 BSC 研究の理論ベースの推移（「日本」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
経済学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
社会学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
心理学／行動科学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
複合	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	1 1.1%
経済・社会・心理以外	0 0.0%	10 10.8%	57 61.3%	26 28.0%	93 100.0%
全体	0 0.0%	10 10.5%	57 60.0%	28 29.5%	95 100.0%

第 6 表 BSC 研究の理論ベースの推移（「欧米学術」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
経済学	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	4 80.0%	5 100.0%
社会学	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	4 100.0%
心理学／行動科学	0 0.0%	1 7.7%	5 38.5%	7 53.8%	13 100.0%
複合	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	6 100.0%
経済・社会・心理以外	0 0.0%	3 15.8%	10 52.6%	6 31.6%	19 100.0%
全体	0 0.0%	5 10.6%	22 46.8%	20 42.6%	47 100.0%

第 7 表 BSC 研究の理論ベースの推移（「欧米実務」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
経済学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
社会学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
心理学／行動科学	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
複合	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
経済・社会・心理以外	4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%
全体	4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%

IV-4 研究方法

どのような方法論によって BSC 研究が進められているのかに関して、「日本」「欧米学術」「欧米実務」の集計結果をそれぞれ、第 8 表から第 10 表に示した。

研究方法に関しては、「規範的研究（主に著者の論理展開に基づいた考察・提言を行った研究）」「ケース／フィールド（主に調査対象においてインタビュー調査を行った研究）」「サーベイ：仮説検証（主に質問票を用いて構成概念間の関係を検討した研究）」「サーベイ：実態把握（主に質問票を用いて実態を調査した研究）」「アーカイバル（主に調査対象に関する定量的データを用いた研究）」「文献レビュー（主に既存研究を整理しながら研究課題を提示した研究）」「分析的研究（主に数学モデルを用いた研究）」「実験（主に実験計画を設計して対象／被験者を検討した研究）」「その他」に分類している。

第 8 表をみると、「日本」では、第 2 期において「規範的研究」が支配的であったものの、経時的に、BSC 研究に用いられる研究方法は多岐にわたるようになっていく。同一期における「規範的研究」を行った BSC 論文の比率は、第 3 期から第 4 期にか

第8表 BSC 研究の研究手法の推移 (「日本」)

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
規範的研究		0 0.0%	10 14.5%	42 60.9%	17 24.6%	69 100.0%
ケース／フィールド		0 0.0%	0 0.0%	9 60.0%	6 40.0%	15 100.0%
サーベイ	実証研究	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%
	実態調査	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%	6 100.0%
アーカイバル		0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
文献レビュー		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
分析的研究		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
実験		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体		0 0.0%	10 10.5%	57 60.0%	28 29.5%	95 100.0%

第9表 BSC 研究の研究手法の推移 (「欧米学術」)

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
規範的研究		0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
ケース／フィールド		0 0.0%	1 11.1%	4 44.4%	4 44.4%	9 100.0%
サーベイ	実証研究	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	4 66.7%	6 100.0%
	実態調査	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
アーカイバル		0 0.0%	0 0.0%	6 75.0%	2 25.0%	8 100.0%
文献レビュー		0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	4 100.0%
分析的研究		0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
実験		0 0.0%	1 7.7%	6 46.2%	6 46.2%	13 100.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体		0 0.0%	5 10.6%	22 46.8%	20 42.6%	47 100.0%

けて、73.7% (42/57) から 60.7% (17/28) に減少した。一方で、「ケース／フィールド」による研究は、15.8% (9/57) から 21.4% (6/28) に増加している。

第9表に示した「欧米学術」では、第3期において、研究方法の分類に設定した、「その他」以外すべての項目の研究手法が実施されている。「分析的研究」や「実験」も

第 10 表 BSC 研究の研究方法の推移（「欧米実務」）

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
規範的研究		3 5.1%	22 37.3%	23 39.0%	11 18.6%	59 100.0%
ケース／フィールド		1 4.0%	3 12.0%	17 68.0%	4 16.0%	25 100.0%
サーベイ	実証研究	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
	実態調査	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	6 100.0%
アーカイバル		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
文献レビュー		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
分析的研究		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
実験		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
全体		4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%

研究方法として実施されている点が、「日本」とは異なる。第 4 期にて「規範的研究」や「文献レビュー」は行われていないとはいえ、同一期内の比率として、「ケース／フィールド」「サーベイ（実証研究）」「サーベイ（実態調査）」「分析的研究」「実験」はそれぞれ、第 3 期から第 4 期にかけて、18.2%（4/22）から 20.0%（4/20）、4.5%（1/22）から 20.0%（4/20）、4.5%（1/22）から 5.0%（1/20）、4.5%（1/22）から 15.0%（3/20）、27.3%（6/22）から 30.0%（6/20）へと増加している。

第 10 表の「欧米実務」に関しては、「日本」に比べても、BSC 研究にて実施される研究方法の多様性は小さい。推移として、「規範的研究」の同一期内の比率は、第 2 期の 84.6%（22/26）をピークに第 4 期の 57.9%（11/19）へと減少傾向にある。第 3 期に 38.6%（17/44）を占める「ケース／フィールド」もまた、第 4 期にて 21.1%（4/19）と減少している。ただし、「サーベイ（実態調査）」は、第 2 期から第 4 期にかけて、3.8%（1/26）、4.5%（2/44）、15.8%（3/19）と比重を高めている。

IV-5 研究サイト

第 11 表から第 13 表にはそれぞれ、「日本」「欧米学術」「欧米実務」における BSC 研究が実施された研究サイトの推移をまとめている。

研究サイトは、「製造業（加工組立産業、プロセス産業など）」「非製造業（流通業、飲食業、銀行など）」「営利組織全体（製造業および非製造業の双方を対象）」「非営利組織（病院、政府、自治体など）」「不明（企業情報の明記なし）」「研究サイトなし」に類

第11表 BSC 研究の研究サイトの推移 (「日本」)

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
製造業	0 0.0%	0 0.0%	8 80.0%	2 20.0%	10 100.0%
非製造業	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	3 100.0%
営利組織全体	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	4 100.0%
非営利組織	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	4 57.1%	7 100.0%
研究サイトなし	0 0.0%	10 14.3%	42 60.0%	18 25.7%	70 100.0%
不明	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体	0 0.0%	10 10.5%	57 60.0%	28 29.5%	95 100.0%

第12表 BSC 研究の研究サイトの推移 (「欧米学術」)

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
製造業	0 0.0%	1 8.3%	6 50.0%	5 41.7%	12 100.0%
非製造業	0 0.0%	0 0.0%	4 57.1%	3 42.9%	7 100.0%
営利組織全体	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	3 60.0%	5 100.0%
非営利組織	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
研究サイトなし	0 0.0%	3 13.6%	10 45.5%	9 40.9%	22 100.0%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体	0 0.0%	5 10.6%	22 46.8%	20 42.6%	47 100.0%

別した。

第11表から、「日本」においては、第3期以降、研究サイトの多様性が見受けられる。すなわち、同一期内の比率として、第2期に支配的であった「研究サイトなし」が、第3期や第4期において、73.7% (42/57)、64.3% (18/28) に減少するとともに、他の研究サイトでの研究が進められている。「製造業」については、第3期から第4期にかけて、同一期内で比率が、14.0% (8/57) から7.1% (2/28) に減少しているものの、「非製造業」「営利組織全体」「非営利組織」はそれぞれ、1.8% (1/57) から7.1% (2/28)、3.5% (2/57) から7.1% (2/28)、5.3% (3/57) から14.3% (4/28) へと比重を

15 「欧米実務」において見受けられた、アメリカ南東部・北中央部2大学のMBA学生96人への質問票調査に関しては、MBA学生の所属に関する情報が明記されていなかったため、「研究サイトなし」に分類している。

第13表 BSC 研究の研究サイトの推移（「欧米実務」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
製造業	0 0.0%	1 14.3%	6 85.7%	0 0.0%	7 100.0%
非製造業	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	3 37.5%	8 100.0%
営利組織全体	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	4 100.0%
非営利組織	0 0.0%	2 22.2%	7 77.8%	0 0.0%	9 100.0%
研究サイトなし	3 5.0%	21 35.0%	24 40.0%	12 20.0%	60 100.0%
不明	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	5 100.0%
全体	4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%

高めている。

第12表の「欧米学術」においても、第2期には「研究サイトなし」が同一期内全体の60.0%（3/5）を占めながらも、第3期以降は他の研究サイトへの広がりを見せている。しかしながら、第3期以降、「非営利組織」を対象としたBSC論文は皆無である。「製造業」「非製造業」「営利組織全体」を対象としたBSC論文数は、第3期から第4期にかけて、概ね同数で推移しつつ、3つの研究サイト合計の同一期内での比率は第3期および第4期においてそれぞれ、54.5%（12/22）、55.0%（11/20）と半数以上を占めるに至っている。

第13表の「欧米実務」の研究サイトの推移の特徴としては、「不明」として集計している、調査対象に関する情報を明記していないBSC論文が、「日本」に比べて多い点を指摘できる。「欧米学術」では「不明」は皆無である。また、「欧米実務」では、BSC論文数において、第3期に研究サイトの多様化のピークが見受けられる。「製造業」および「非営利組織」を対象としたBSC論文数は、第2期から第3期にかけて増加するとはいえ、第4期にはゼロとなっている。

ただし、「非製造業」や「研究サイトなし」では、第3期から第4期にかけて、BSC論文数は減少するものの、同一期内の比率はそれぞれ、11.4%（5/44）から15.8%（3/19）、54.5%（24/44）から63.2%（12/19）へと上昇している。加えて、製造業および非製造業を区別しない「営利組織全体」のBSC論文数の同一期内での比率は、第1期から第4期にかけて、25.0%（1/4）、3.8%（1/26）、0%（0/44）、10.5%（2/19）と上下動している。

V わが国 BSC 研究における研究内容の動向

V-1 研究内容の分類

本節では、わが国において実施されてきた BSC 研究の研究内容について示すとともに、「欧米学術」および「欧米実務」との比較を通じて、研究内容がどのように推移しているのかを検討する。

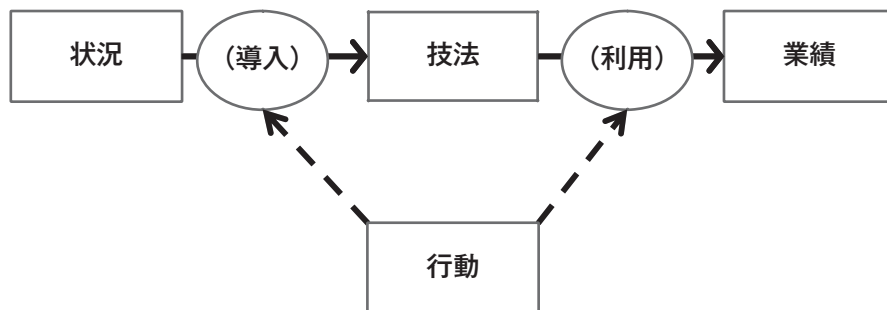
BSC 研究の研究内容を把握する上で、本稿では先行研究 (Young and Selto, 1991; 星野, 2006; 吉田他, 2009; 2012) を参考にしながら、第 1 図のように分類フレームワークを設定した。¹⁶

第 1 図の分類フレームワークは、大きく「技法」「状況」「業績」「行動」の四つの項目から構成されている。¹⁷ 四つの項目にはさらに細目を設けながら、各 BSC 論文が取り組んでいる研究内容を分類している。

第 1 図の BSC 論文の分類フレームワークでは、全体として、「状況」によって影響を受けた BSC の「技法」が「業績」に反映されることを示している。ただし、BSC を運用するのは組織成員であることから、組織成員の「行動」が、BSC の「技法」、あるいは、「業績」に影響を及ぼすと想定できる。それゆえ、組織成員の導入段階での「行動」を「状況」と「技法」とのあいだに、利用段階での「行動」を BSC の「技法」と「業績」とのあいだに挿入している。

なお、BSC 論文が取り扱う研究内容は、必ずしも上記 4 項目のうちの 1 項目に収まるとは限らない。BSC 論文の研究内容を上記のフレームワークに基づいて分類するにあたって、研究内容が複数の項目にまたがる場合は、1 本の論文に対して複数のコード

第 1 図 BSC 論文の分類フレームワーク



【出所】河合・乙政 (2012)

16 本稿で用いている分類フレームワーク、および、各 BSC 論文の分類結果も、河合・乙政 (2012) と同一である。

17 「技法」、「状況」、「業績」、「行動」に区分できない研究内容は「その他」にて集計している。本項では「その他」に分類した BSC 論文の内容および研究内容の推移については議論しない。

を割り振っている。

V-2 項目別の研究内容

(1) 「技法」

まず、BSC 研究の研究内容として取り上げた項目は、BSC の技術的側面に関わる「技法」である（吉田他, 2009；2012）。「技法」には、「単独」および「複合」の二つの細目を設定した上で、該当論文を分類している。

「単独」は、BSC 概念の解説・考察および技術的改善策の提示を行っている BSC 論文であることを示している。「単独」に分類した研究の内容をいくつかまとめれば、BSC¹⁸の解説、BSC の機能の考察¹⁹、BSC 適用局面の考察²⁰、ツールの応用²¹として提示できる。

「技法」のもう一つの細目である「複合」には、BSC と他のマネジメントシステムとの連携を考察した BSC 論文を分類している。わが国の BSC 論文においては、管理会計領域で扱われるシステムとの連携²²や、隣接分野において研究対象となっているシステムとの連携²³が検討されている。

(2) 「状況」

BSC 研究の研究内容として取り上げた二つ目の項目は、BSC に影響を与える「状況」である。「状況」に関しては、「コンテキスト要因」および「戦略」の二つの細目を設定している。

「コンテキスト要因」は、BSC に影響を与える組織内外の要因である（星野, 2006²⁴）。

18 BSC を解説した論文としては、たとえば、吉川（1998）、飯塚（1998）、長谷川・清水（2001）、櫻井（2000）、奥（2008）、安酸他（2010）がある。

19 BSC の機能を考察した論文の代表例としては、清水（1997）、古田（1998）、小林（2000）、廣本（2001）、田中（2002）、丸田（2004）を挙げられる。

20 BSC の適用可能性が検討された局面としては主に、経営品質管理への役立ち（和手, 2004）、知的資産経営への役立ち（望月, 2006）、リスク管理への役立ち（南雲, 2003；谷守, 2007）、情報システム評価への役立ち（櫻井, 2003；杉山, 2003；小酒井・伊藤, 2006）、人的資源管理への役立ち（山下, 2009）、研究開発管理への役立ち（諸藤, 2003）、SCM（Supply Chain Management）管理への役立ち（西澤, 1999）、を提示できる。

21 ツールの応用の代表例としては、指標間の関係性の強さを検討する DTP ワークシート（Design to Performance ワークシート：伊藤嘉, 2006）、「アウトカム」「ドライビングフォース」「リスク・制約」から戦略を構築する三次元戦略マップ（伊藤嘉, 2006）、プロジェクト管理のための PBSC（Project Balanced Scorecard：鈴木, 2004）、持続可能性を考慮した SBSC（Sustainability Balanced Scorecard：岡, 2010）、組織間管理のための ECR スコアカード（Efficient Consumer Response Scorecard：飯島, 2003）、シナジーコスト管理のための BSC（松村, 2009）がある。

22 管理会計領域のシステムに関しては、たとえば、活動基準予算管理（ABB：Activity Based Budgeting）を含む予算管理との連携（伊藤, 2003 a, b；2005；小菅, 1999；2001）、制約理論との連携（TOC：Theory of Constraints：浜田, 2001）、ABC（Activity Based Costing）および EVA（Economic Value Added）との連携（櫻井, 2001）が議論されている。

23 BSC との連携関係を模索している隣接分野のシステムとしては、たとえば、マルコム・ボルドリッジ賞のような経営品質管理システム（伊藤, 2003 c）、方針管理（山田・伊藤, 2005）、CSR（Corporate Social Responsibility：今福, 2004）、ERM（Enterprise Risk Management：澤邊, 2006；南雲, 2006）がある。

24 星野（2006）のフレームワークでは、「条件変数」と呼ばれている。

わが国においては、たとえば、BSC 導入あるいは BSC の進化に影響を与える「コンテキスト要因」として、組織規模、市場ポジション、無形資産、品質管理といった導入を決定する要因²⁵の他に、組織改編や規制環境の変化のような制度的要因²⁶が取り上げられている。

「状況」を構成するもう一つの細目である「戦略」もまた、BSC に影響を与える（星野²⁷，2006）。わが国では、差別化戦略や品質戦略の採用による BSC 導入への影響が検討されている。

(3)「業績」

BSC 研究の内容を分析するためのフレームワークを構成する三つ目の項目は、「業績」である。BSC の成果を示す「業績」には、「内部業績」および「外部業績」の二つの細目を設定した。

「内部業績」は、BSC の企業内パフォーマンスである（星野²⁹，2006）。わが国の BSC 論文において取り上げられた、BSC の成果としての「内部業績」には、BSC と他のマネジメントシステム（中期利益計画・予算）との連携からもたらされる「戦略共有効果」や「戦略実行効果」³⁰、BSC の導入・実践による「戦略意識」および「動機づけ」の向上³¹、がある。

「外部業績」では、BSC が企業の財務的・非財務的成果に与える影響を捉えている。しかしながら、わが国において、BSC の「外部業績」への影響を検証した BSC 論文は見当たらなかった。「外部業績」を検討するには、複雑に絡み合う、さまざまな要因も同時に考慮に入れなければならない。わが国において「外部業績」を考察した BSC 論文が見当たらなかった一因として、「外部業績」を検証することの困難さも関係していると考えられる。

25 導入を決定する要因を検証した論文には、乙政（2004）および乙政・梶原（2009）がある。

26 制度的要因は、澤邊（2006）において検討されている。

27 星野（2006）では、「戦略」を「条件変数」と成果変数との媒介変数と位置付けているものの、本稿では、フレームワークを複雑化させないために、「状況」の中で「戦略」を「コンテキスト要因」と並列させている。

28 戦略は、乙政・梶原（2009）において検証されている。

29 星野（2006）では、「組織有効性」と呼ばれている。

30 「戦略共有効果」や「戦略実行効果」は林（2006）において検証されている。

31 渡邊（2009）は、病院を対象として、BSC の導入・実践による「戦略意識」および「動機づけ」の向上の実証を行っている。

32 「欧米学術」には「業績（外部業績）」に分類した BSC 論文が存在する。「外部業績」に分類した「欧米学術」の BSC 論文の研究内容としては、たとえば、BSC によって管理される業績指標（利用度、多次元性、戦略との適合度）と組織業績（ROI、売上総利益率、利用キャパシティーの程度、顧客満足度、製品品質、財務業績、株価への影響など）との関係（Hoque and James, 2001; Ittner et al., 2003; Grafton et al., 2010）、業績指標の管理方法による組織業績への影響（Grafton et al., 2010）、BSC 導入サイトと BSC 非導入サイトとの財務業績（サイト独自の統合財務指標）の差異（Davis and Albright, 2004）、がある。

（4）「行動」

BSC 研究の研究内容として四つ目に、「行動」を取り上げた。「行動」はさらに BSC の「導入局面」および「利用局面」の二つの細目によって区分している³³。

「導入局面」には、BSC 導入時における、組織もしくは個人の行動を考察した BSC 論文をカウントしている。BSC 導入の是非や導入に要する期間は、組織もしくは個人の行動によって影響を受ける。「導入局面」に分類した、わが国の BSC 論文には、BSC の導入規定要因の検討³⁴、BSC の構築および導入プロセスの記述³⁵、BSC 導入に関する影響要因の抽出³⁶、がある。

「利用局面」では、BSC 実践時の、BSC の利用にかかわる組織あるいは個人の行動を捉えている。BSC の利用にかかわる組織あるいは個人の行動を通じて、BSC の使われ方は多様化する。わが国における「利用局面」に関する主な BSC 論文としては、BSC において測定・管理される業績指標³⁷、BSC の運用実践³⁸、報酬システムとしての BSC の利用³⁹、が挙げられる。

V-2 研究内容の推移

（1）研究内容項目

前項では、わが国において実施されてきた BSC 研究の研究内容を概観した。続いて、第 1 図の分類フレームワークに基づいて、わが国の BSC 研究の研究内容項目の推移を、「欧米学術」および「欧米実務」との比較も行いながら検討する。

第 14 表から第 16 表にはそれぞれ、「日本」「欧米学術」「欧米実務」における BSC 研究の研究内容項目の推移を示している。

第 14 表をみると、「日本」では、第 2 期において、「技法（単独）」に関心が集中しているものの、第 3 期および第 4 期においてそれぞれ、「技法（単独）」の同一期内の比率は 51.5%（34/66）、36.6%（15/41）となっている。

「技法（単独）」の同一期内での相対的比率の低下は、第 3 期では、「技法（複合）」や

33 導入局面と利用局面とを分類した上で、BSC に関する組織成員の行動を分析することの重要性については、谷（2005 b）を参照されたい。

34 BSC の導入規定要因を検討した論文には、澤邊（2006）や乙政・梶原（2009）がある。

35 BSC の構築および導入プロセスを記述した論文には、たとえば、彌園（2003）、馬場（2004）、伊藤和（2006）、中嶋（2009）がある。BSC の構築および導入プロセスの記述に関しては、実務家からの知見が蓄積されている。

36 BSC 導入に関する促進要因や阻害要因が、乙政（2005）、谷（2005 a）、谷他（2005）によって検討されている。

37 BSC において測定・管理される業績指標に関する検討は、河合（2004）においてなされている。

38 BSC の運用実践に関しては主に、BSC の運用についての評価（林，2004）、BSC の改良に関する事例（松本，2004）、BSC 運用の実態記述（藤野・挽，2004）が挙げられる。

39 河合・乙政（2007）は、事例を通じて、報酬システムとして BSC を利用することの課題を考察している。

第14表 BSC 研究の研究内容項目の推移 (「日本」)

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
状況	組織コンテキスト	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
	戦略	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%
技法	技法 (単独)	0 0.0%	9 15.5%	34 58.6%	15 25.9%	58 100.0%
	技法 (複合)	0 0.0%	1 5.6%	11 61.1%	6 33.3%	18 100.0%
業績	内部業績	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	3 100.0%
	外部業績	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
行動	行動 (導入局面)	0 0.0%	0 0.0%	12 57.1%	9 42.9%	21 100.0%
	行動 (利用局面)	0 0.0%	0 0.0%	8 72.7%	3 27.3%	11 100.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体		0 0.0%	10 8.5%	66 56.4%	41 35.0%	117 100.0%

第15表 BSC 研究の研究内容項目の推移 (「欧米学術」)

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
状況	組織コンテキスト	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	4 57.1%	7 100.0%
	戦略	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	3 100.0%
技法	技法 (単独)	0 0.0%	3 17.6%	6 35.3%	8 47.1%	17 100.0%
	技法 (複合)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
業績	内部業績	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%
	外部業績	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	4 100.0%
行動	行動 (導入局面)	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	1 16.7%	6 100.0%
	行動 (利用局面)	0 0.0%	2 6.1%	13 39.4%	18 54.5%	33 100.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
全体		0 0.0%	8 11.0%	30 41.1%	35 47.9%	73 100.0%

「行動 (導入+利用局面)」における論文数の増加によってもたらされている。第4期においては、第3期において増加した「技法 (複合)」や「行動 (利用局面)」もまた、同一期内的相対的比率をそれぞれ、16.7% (11/66) から14.6% (6/41)、12.1% (8/66) から7.3% (3/41) へと下げるものの、「組織コンテキスト」「戦略」「内部業績」において

第16表 BSC 研究の研究内容項目の推移（「欧米実務」）

		1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
状況	組織コンテキスト	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
	戦略	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
技法	技法（単独）	4 8.2%	19 38.8%	20 40.8%	6 12.2%	49 100.0%
	技法（複合）	1 5.3%	4 21.1%	8 42.1%	6 31.6%	19 100.0%
業績	内部業績	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	外部業績	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
行動	行動（導入局面）	1 4.2%	8 33.3%	12 50.0%	3 12.5%	24 100.0%
	行動（利用局面）	1 6.7%	2 13.3%	6 40.0%	6 40.0%	15 100.0%
その他		0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全体		7 6.5%	33 30.6%	46 42.6%	22 20.4%	108 100.0%

論文数が増加している。なお、「行動（導入局面）」に関しては、第3期から第4期にかけて、同一期内の比率が18.2%（12/66）から22.0%（9/41）へと上昇している。

「日本」では、第3期をピークとした論文数の減少、なおかつ、「技法」への高い比重を示しながらも、研究内容に関して経時的に広がりを見せている。

第15表から、「欧米学術」に関しては、「日本」と比べると、第2期から研究内容に多様性が見て取れる。第4期と比較して、第2期に論文がカウントされていない項目は、「戦略」および「内部業績」の2項目となっている。

項目別にみれば、「欧米学術」における「技法」への関心は、「日本」や第16表に示す「欧米実務」と比しても低い。「技法（単独）」の論文数は増加しているとはいえ、第2期から第4期までの同一期内の比率はそれぞれ、37.5%（3/8）、20.0%（6/30）、22.9%（8/35）となっている。また、「技法（複合）」については皆無である。

一方で、「行動」への関心は高い。「行動（導入局面）」については、第3期をピークに論文数も同一期内の比率も低下しているものの、「行動（利用局面）」に関しては、論文数の増加とともに、同一期内の比重も高まっている。「行動（利用局面）」の同一期内の比率は、第2期から第4期までそれぞれ、25.0%（2/8）、43.3%（13/30）、51.4%（18/35）である。第3期および第4期において、「行動（利用局面）」は、同一期内において最も高い相対的比率を示している。

第16表に示した「欧米実務」の研究内容項目の推移の特徴は、研究対象となっている項目が「技法」および「行動」に集中していることである。「状況」や「業績」への

関心は極めて薄い。

「技法」について細目をみると、「技法（単独）」の同一期内的の比率は、第2期の57.6% (19/33) をピークに、第3期43.5% (20/46)、第4期27.3% (6/22) へと減少している。対して、「技法（複合）」の同一期内的の比率は、第2期から第4期にかけて、12.1% (4/33)、17.4% (8/46)、27.3% (6/22) と期ごとに上昇している。同じく「技法」を扱っているとはいえ、関心は「技法（複合）」へとシフトしていると考えられる。

「行動」に関しても、「技法」と同様の傾向が見て取れる。すなわち、「行動（導入局面）」の同一期内的の比率が減少傾向にあるのに対して、「行動（利用局面）」の比重は高まっている。⁴⁰「行動（利用局面）」の比重の高まりは、「欧米学術」と同じ動きでもある。「日本」とは逆に、欧米における、学術・実務双方の関心は、BSCの導入局面から利用局面へと移行していると捉えることができよう。

(2) 研究内容項目数

前述した通り、個々のBSC論文が取り組む研究内容は複数の項目にまたがる場合もある。第17表から第19表にはそれぞれ、「日本」「欧米学術」「欧米実務」における、各BSC研究が扱う研究内容項目数の推移をまとめている。

まず、第17表および第18表から、「日本」と「欧米学術」との比較を行うと、両者とも複数の項目を扱うBSC論文が期ごとに増加する傾向にある。ただし、「欧米学術」においては、第2期から複数の項目を研究対象とするBSC論文が見受けられる。また、「1項目」の同一期内的の相対的比率は、第2期から第4期までそれぞれ、60.0% (3/5)、68.2% (15/22)、35.0% (7/20) となっている。第4期において、「2項目」の比率が、55.0% (11/20) と最も高い。

一方、「欧米学術」と同様の傾向を示すとはいえ、「日本」における項目数の増加は、

第17表 BSC研究の研究内容項目数の推移（「日本」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
1項目	0 0.0%	10 12.7%	49 62.0%	20 25.3%	79 100.0%
2項目	0 0.0%	0 0.0%	7 63.6%	4 36.4%	11 100.0%
3項目	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
4項目	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
全体	0 0.0%	10 10.5%	57 60.0%	28 29.5%	95 100.0%

40 「行動（導入局面）」の同一期内的の比率は、第3期の26.1% (12/46) をピークに、第4期には13.6% (3/22) へと低下している。対して、「行動（利用局面）」の同一期内的の比率は、第2期から第4期にかけて、6.1% (2/33)、13.0% (6/46)、27.3% (6/22) と期ごとに上昇している。

第 18 表 BSC 研究の研究内容項目数の推移（「欧米学術」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
1 項目	0 0.0%	3 12.0%	15 60.0%	7 28.0%	25 100.0%
2 項目	0 0.0%	1 5.6%	6 33.3%	11 61.1%	18 100.0%
3 項目	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	4 100.0%
全体	0 0.0%	5 10.6%	22 46.8%	20 42.6%	47 100.0%

第 19 表 BSC 研究の研究内容項目数の推移（「欧米実務」）

	1992-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	計
1 項目	2 2.5%	20 25.0%	42 52.5%	16 20.0%	80 100.0%
2 項目	1 9.1%	5 45.5%	2 18.2%	3 27.3%	11 100.0%
3 項目	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
全体	4 4.3%	26 28.0%	44 47.3%	19 20.4%	93 100.0%

「欧米学術」に比べれば緩やかである。「日本」での「1 項目」の同一期内の比率は、第 2 期から第 4 期までそれぞれ、100.0%（10/10）、86.0%（49/57）、71.4%（20/28）である。いずれの期においても、「1 項目」が最も高い比率を示す。研究内容項目数の推移から類推すれば、「欧米学術」のほうが「日本」よりも多面的な研究内容に取り組んできていると考えられる。

次に、第 19 表を参照しながら、「日本」と「欧米実務」との比較を行えば、「欧米実務」の研究内容項目数の推移は「日本」とは異なる傾向を示している。「欧米実務」において、第 1 から第 4 期までの「1 項目」の同一期内の比率はそれぞれ、50.0%（2/4）、76.9%（20/26）、95.5%（42/44）、84.2%（16/19）である。「欧米実務」での「1 項目」の比率のピークは第 3 期にある。BSC に対する認知度の高まりとともに BSC の解説を付す必要性は薄まることから、「欧米実務」では経時的に研究の焦点が絞り込まれる方向に向かっていると推測される。

VI おわりに：わが国 BSC 研究の動向

本稿では、BSC 提唱論文である Kaplan and Norton（1992）の刊行以降の、1992 年から 2010 年までを対象期間として、わが国の主要会計雑誌に掲載された BSC 研究の動向を考察すべく文献分析を行った。文献分析を実施するにあたっては、「欧米学術（欧米主要会計学術雑誌）」や「欧米実務（欧米主要会計実務雑誌）」における研究蓄積状況

と照らし合わせながら、わが国での BSC 研究の推移を検討した。検討の結果として、以下の点を明らかにしている。

一つに、「欧米学術」では BSC 論文数は増加傾向にあるのに対して、わが国においては第3期をピークに減少している。特に、『会計』や『企業会計』での BSC 論文数の減少が著しい。査読付き雑誌である『原価計算研究』や『管理会計研究』は、概ね同水準を維持している。

二つに、わが国の BSC 論文においては、「第3期著作」の引用率が高い。わが国では、「欧米学術」や「欧米実務」よりも、戦略マップを含む、戦略策定時に活用される BSC への関心が高い。

三つに、BSC 研究の理論ベースに関しては、わが国の BSC 論文は、「欧米学術」が志向する方向にわずかながら向かっている。すなわち、第3期まで「経済学」「社会学」「心理学」を理論ベースにした BSC 論文は皆無であったにもかかわらず、第4期においては、「心理学」や「複合」をベースにした研究が現れている。

四つに、わが国の BSC 論文の研究方法は、第2期において「規範的研究」が支配的であったものの、経時的に多岐にわたるようになってきている。「欧米学術」において見受けられる「分析的研究」や「実験」は実施されていないとはいえ、「欧米実務」よりも幅広い研究方法が採用されている。

五つに、わが国では、研究方法と同様に、BSC 論文において対象とされる研究サイトも多岐にわたるようになってきている。第2期において支配的であった「研究サイトなし」の比率は、第3期から第4期にかけて、「非製造業」や「非営利組織」の増加によって低下している。「研究サイトなし」の減少は、「欧米学術」と同様の傾向である。ただし、「非営利組織」へも関心を向けている点で、「欧米学術」とは異なる。

六つに、わが国においては、第3期をピークとして論文数が減少する中で、「技法」への高い比重を示しながらも、研究内容に関して経時的に広がりを見せている。第4期における研究内容の多様性は「欧米学術」と同程度である。ただし、「欧米学術」では「技法（複合）」が見当たらない。対して、わが国では「外部業績」を考察した BSC 論文を見いだせなかった。また、「欧米学術」や「欧米実務」では、経時的に「行動（利用局面）」の比重が高まっている。一方で、わが国における BSC 研究の関心は、BSC の利用局面よりも導入局面のほうに向いている。

最後に、研究内容の項目数の推移に関して、「欧米実務」とは逆に、わが国および「欧米学術」において、個々の BSC 論文が取り組む研究内容の項目数は増加する傾向にある。しかしながら、研究内容項目数の推移から類推すれば、「欧米学術」のほうが「日本」よりも多面的な研究内容に取り組んできていると考えられる。

まとめれば、わが国においては、理論ベース・研究方法・研究サイト・研究内容い

れもが多様化する傾向にある。すなわち、わが国の研究者は、BSC 研究に対して多様なアプローチを採用しつつあることを示している。したがって、今後のわが国の BSC 研究においては、単一の研究内容ではなく、よりいっそう多面的な研究内容に取り組んでいくことが期待されよう。

また、わが国組織への BSC の定着に相まって、「欧米学術」および「欧米実務」において関心の高い、BSC の利用局面や実践による成果に関する研究内容を充実させる機会が出現している。わが国では戦略策定時に活用される BSC や BSC の導入局面への関心が高いとはいえ、たとえば、BSC 導入時に調査を実施した企業への再調査を通じて BSC の「行動（利用局面）」や「業績」を研究する、あるいは、BSC の利用を断念した企業への調査によって BSC の機能（成果）を検証する、といった「欧米学術」や「欧米実務」にはないアプローチを採用することも可能である。

わが国において BSC 論文が減少する傾向にあるにしても、今後、BSC 研究を増加させる潜在的な余地は残されているといえる。単に「技法」に終始するのではなく、多様なアプローチによって研究内容を充実させていくことは、BSC のレレバンス・ロストを検討する上で不可欠である。BSC 研究に関してさらなる研究蓄積の段階が到来している。

〈謝辞〉

本研究の初期段階において、研究の方向性に関する貴重なアドバイスをくださった加登豊先生（同志社大学教授・神戸大学名誉教授）および小林哲夫先生（神戸大学名誉教授）、吉田栄介先生（慶應義塾大学教授）に感謝したい。また、本研究を進めるにあたって、2012 年度第 2 回日本管理会計学会関西・中部部会にて報告を行った。報告に協力していただいた坂口順也先生（関西大学教授）、および、貴重なご示唆をくださった上總康行先生（京都大学名誉教授）に感謝申し上げる。なお、本研究は、科学研究費助成事業助成金による研究成果の一部である。

参考文献

- 飯島康道. 2003. 「流通業における SCM とスコアカード－ECR 取組の評価と ECR スコアカードのグローバル化を中心として－」『会計』164(6)：849-862.
- 飯塚勲. 1998. 「業績指標と戦略の管理会計」『会計』154(4)：552-569.
- 伊藤和憲. 2006. 「戦略マップと BSC の導入事例－相模原協同病院への導入」『企業会計』58(10)：1628-1636.
- 伊藤嘉博. 2003 a. 「BSC をめぐる主要な論点－グローバルスタンダード経営の羅針盤－」『会計』163(3)：204-220.
- 伊藤嘉博. 2003 b. 「経営品質と BSC」『企業会計』55(5)：664-670.
- 伊藤嘉博. 2003 c. 「バランスト・スコアカードと予算との有機的連携の意義と可能性」『産業経理』63(3)：82-89.
- 伊藤嘉博. 2005. 「戦略志向組織における予算管理－BSC との関係を軸とした検討－」『原価計算研究』29(1)：25-34.
- 伊藤嘉博. 2006. 「戦略マネジメントシステムとしてのバランスト・スコアカードの現状と展望－その基

- 本構造の普遍性と拡張性に関する検討－』『管理会計学』14(2)：65-76.
- 今福愛志. 2004. 「CSR 会計のフレームワークの再構成－CSR リスクマネジメントと会計』『企業会計』56(9)：1242-1249.
- 岡照二. 2010. 「環境コストマネジメントにおける環境パフォーマンス指標の役割－SBSC 構築に向けて－』『原価計算研究』34(1)：91-101.
- 奥倫陽. 2008. 「戦略実行の業績評価システムに関する研究－SLAS, BSC, レディネス評価, アラインメント評価を中心として－』『産業経理』68(2)：131-139.
- 乙政佐吉. 2004. 「わが国企業のバランス・スコアカード導入に対する促進要因の分析』『会計』166(5)：767-779.
- 乙政佐吉. 2005. 「わが国企業のバランス・スコアカード導入における促進・阻害要因に関する研究－A社のケースを通じて－』『原価計算研究』29(1)：58-73.
- 乙政佐吉・梶原武久. 2009. 「バランス・スコアカード実践の決定要因に関する研究』『原価計算研究』33(2)：1-13.
- 加登豊. 2012. 「わが国における欧米発管理会計システムの受容・変容・進化」(廣本敏郎・加登豊・岡野浩〔編〕『日本企業の管理会計システム (体系現代会計学第12巻)』中央経済社, 第6章に所収).
- 加登豊・松尾貴巳・梶原武久編著. 2010. 『管理会計研究のフロンティア』中央経済社.
- 河合隆治. 2001. 「バランス・スコアカード研究：イノベーション・アクションリサーチに基づく文献引用分析』『六甲台論集』48(2)：91-107.
- 河合隆治. 2004. 「財務的指標と非財務的指標の業種別分析』『原価計算研究』28(2)：57-70.
- 河合隆治・乙政佐吉. 2007. 「バランス・スコアカードによる業績連動型報酬制度の運用』『企業会計』59(4)：588-593.
- 河合隆治・乙政佐吉. 2012. 「わが国バランスト・スコアカード研究に関する文献分析－欧米主要会計学術雑誌・実務雑誌との比較を通じて－』『会計プロGRESS』13：112-124.
- 小酒井正和・伊藤和憲. 2006. 「無形の資産を創造する IT マネジメントのあり方－BSC フレームワークに基づく情報資本の構築－』『原価計算研究』30(2)：42-52.
- 小菅正伸. 1999. 「戦略管理会計の課題－活動基準予算管理を中心として－』『産業経理』59(2)：54-61.
- 小菅正伸. 2001. 「活動基準スコアカード－顧客価値を中心として－』『会計』160(6)：884-896.
- 小林哲夫. 2000. 「BSC と戦略的マネジメント』『会計』158(5)：625-637.
- 櫻井通晴. 2000. 「バランスト・スコアカードの生成・沿革とその特徴』『産業経理』60(2)：2-10.
- 櫻井通晴. 2001. 「バランスト・スコアカードと EVA, ABC の統合』『企業会計』53(9)：1236-1244.
- 櫻井通晴. 2003. 「情報システム投資の評価へのバランスト・スコアカードの活用』『産業経理』63(2)：4-11.
- 澤邊紀生. 2006. 「管理会計の公共性－外部報告と管理会計技法－』『会計』169(2)：186-205.
- 清水孝. 1997. 「戦略的管理会計への管理会計領域の拡大』『会計』152(2)：214-226.
- 杉山善浩. 2003. 「IT 投資の評価における BSC 援用アプローチの有用性』『産業経理』63(1)：34-42.
- 鈴木研一. 2004. 「プロジェクト管理会計システムの枠組み』『企業会計』56(7)：954-960.
- 高橋淑郎. 2012. 『医療バランスト・スコアカード研究【経営編】』生産性出版.
- 田中隆雄. 2002. 「戦略の実行と業績評価－戦略的マネジメント・システムに関連して－』『会計』161(4)：477-491.
- 谷武幸. 2005 a. 「医療経営へのバランスト・スコアカードの導入－新須磨病院のケース－』『産業経理』65(1)：14-27.
- 谷武幸. 2005 b. 『成功する管理会計システム－その導入と進化－』中央経済社.
- 谷武幸・三矢裕・松尾貴巳. 2005. 「新須磨病院整形外科における BSC の導入についての時系列分析－アクションリサーチとエンピリカルリサーチの統合アプローチ－』『原価計算研究』29(1)：35-46.
- 谷守正行. 2007. 「銀行管理会計に対するリスク管理の影響』『会計』172(3)：382-393.

- 中嶋教夫. 2009. 「明星大学におけるバランスト・スコアカード（BSC）への取組み」『企業会計』61（6）：929-935.
- 南雲岳彦. 2003. 「銀行における戦略・内部統制システム強化と BSC」『企業会計』55（5）：684-689.
- 南雲岳彦. 2006. 「戦略管理とエンタープライズ・リスク管理の統合アプローチ-BSC と COSO ERM の統合フレームワークの検討-」『管理会計学』14（2）：41-53.
- 西居豪. 2011. 「バランスト・スコアカード研究の系譜と展望」『専修大学会計学研究所報』25：1-116.
- 西澤脩. 1999. 「サプライチェーン・マネジメントのための管理会計」『企業会計』51（12）：1792-1801.
- 長谷川恵一・清水孝. 2001. 「バランスト・スコアカード経営における戦略マップの意義」『企業会計』53（2）：234-241.
- 馬場博伸. 2004. 「BSC マネジメントについての考察」『産業経理』64（2）：80-93.
- 浜田和樹. 2001. 「TOC の SCM・BSC への適用」『企業会計』53（11）：1551-1557.
- 林攝子. 2004. 「戦略コミュニケーションツールとしてのバランスト・スコアカード-戦略共有効果に関する実証分析-」『企業会計』56（4）：610-615.
- 林攝子. 2006. 「マネジメント・システムの統合による戦略共有と戦略実行への効果について」『会計』169（6）：913-927.
- 挽文子. 2002. 「新たなマネジメントシステムの導入研究-バランスト・スコアカードの概念の発展に焦点を当てて-」『一橋大学研究年報商学研究』43：141-201.
- 廣本敏郎. 2001. 「変革の時代の管理会計-ABC とバランスト・スコアカード-」『企業会計』53（1）：160-168.
- 藤野雅史・挽文子. 2004. 「キリンビールにおけるカンパニー制のもとでの EVA と BSC」『企業会計』56（5）：681-688.
- 古田隆紀. 1998. 「エンパワーメントと管理会計」『会計』153（1）：101-116.
- 星野優太. 2006. 「コンティンジェンシー理論による戦略管理会計の再構築」『会計』170（3）：77-92.
- 松村広志. 2009. 「BSC と戦略予算によるシナジーコストの管理」『産業経理』69（2）：162-169.
- 松本有二. 2004. 「米国シャーロット市のプロジェクト管理会計」『企業会計』56（7）：985-992.
- 丸田起大. 2004. 「戦略経営と管理会計-フィードフォワード・コントロールの視点から-」『管理会計学』12（2）：19-33.
- 彌園豊一. 2003. 「関西電力における経営管理システム改革と BSC」『企業会計』55（5）：690-695.
- 望月恒男. 2006. 「知的資産経営における BSC の活用」『企業会計』58（8）：1231-1239.
- 諸藤裕美. 2003. 「中核技術蓄積のための管理会計システム」『会計』164（5）：655-667.
- 安酸建二・乙政佐吉・福田直樹. 2010. 「バランスト・スコアカード研究の現状と課題-実証研究のレビューに基づく検討-」『原価計算研究』34（1）：1-12.
- 山下千丈. 2009. 「戦略的ヒューマンリソース・マネジメントと管理会計」『企業会計』61（11）：1737-1742.
- 山田義照・伊藤和憲. 2005. 「BSC と方針管理における役割期待とその関係-戦略プロセスとの関連を中心に-」『原価計算研究』29（1）：47-57.
- 吉川武男. 1998. 「企業価値創造の戦略的業績評価システム」『企業会計』50（7）：1083-1087.
- 吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好. 2009. 「日本企業の管理会計実態（3・完）-実態調査研究の文献サーベイを中心として-」『三田商学研究』52（1）：25-35.
- 吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好. 2012. 『日本の管理会計の探求』中央経済社.
- 渡邊直人. 2009. 「バランスト・スコアカードが戦略意識および内発的動機付けとの関係性に及ぼす効果-わが国病院を対象とした定量分析-」『原価計算研究』33（2）：14-23.
- 和手伸泰. 2004. 「経営品質スコアカードの試み」『産業経理』63（4）：91-104.
- Becker, B. E., M. A. Huselid and D. Ulrich. 2001. *The HR Scorecard: Linking People, Strategy, and Performance*. Boston MA: Harvard Business School Press. (菊田良治訳. 2002. 『HR スコアカード』日経 BP 社).

- Boyett, J. and J. Boyett. 1999. *The Guru Guide : The Best Ideas of the Top Management Thinkers*. New York : John Wiley & Sons, Inc. (金井壽宏監訳・大川修二訳. 1999. 『経営革命大全』日本経済新聞社).
- Davis, S. and T. Albright. 2004. An Investigation of the Effect of Balanced Scorecard Implementation on Financial Performance. *Management Accounting Research* 15 : 135-153.
- Grafton, J., A. M. Lillis and S. K. Widener. 2010. The Role of Performance Measurement and Evaluation in Building Organizational Capabilities and Performance. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 689-706.
- Hesford, J. M., S. H. Lee, W. A. van der Stede and S. M. Young. 2007. Management Accounting : A Bibliographic Study. in Chapman, C. S., A. G. Hopwood and M. D. Shields (eds.) *Handbook of Management Accounting Research*. Oxford UK : Elsevier : 3-25.
- Hoque, Z. and W. James. 2000. Linking Balanced Scorecard Measures to Size and Market Factors : Impact on Organizational Performance. *Journal of Management Accounting Research* 12 : 1-17.
- Ittner, C. D., D. F. Larcker and T. Randall. 2003. Performance Implications of Strategic Performance Measurement in Financial Services Firms. *Accounting, Organizations and Society* 28 : 715-741.
- Johnson, H. T. and R. S. Kaplan. 1987. *Relevance Lost : The Rise and Fall of Management Accounting*. Boston : Massachusetts : Harvard Business School Press. (鳥居宏史訳. 1992. 『レlevance・ロストー管理会計の盛衰-』白桃書房).
- Kaplan, R. S. 1998. Innovation Action Research : Creating New Management Theory and Practice. *Journal of Management Accounting Research* 10 : 89-117.
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 1992. The Balanced Scorecard : Measures that Drive Performance. *Harvard Business Review* January-February : 71-79. (本田桂子訳. 1992. 「新しい経営指標 “バランスト・スコアカード”」『DIAMOND ハーバード・ビジネス』4-5月 : 81-90).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 1993. Putting the Balanced Scorecard to Work. *Harvard Business Review* September-October : 134-147. (鈴木一功・森本博行訳. 1994. 「実践バランスト・スコアカードによる企業革新」『DIAMOND ハーバード・ビジネス』12-1月 : 94-109).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 1996 a. Using the Balanced Scorecard as a Strategic Management System, *Harvard Business Review*, January-February : 75-85. (鈴木一功訳. 1997. 「バランスト・スコアカードによる戦略的マネジメントの構築」『DIAMOND ハーバード・ビジネス』2-3月 : 92-105).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 1996 b. *The Balanced Scorecard : Translating Strategy into Action*. Boston MA : Harvard Business School Press (吉川武男訳. 1997. 『バランスト・スコアカードー新しい経営指標による企業変革』生産性出版).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2000. Having Trouble with Your Strategy? Then Map It, *Harvard Business Review* September-October : 167-176. (伊藤嘉博監訳. 村井章子訳. 2001. 「バランスト・スコアカードの実践ツールー戦略・マップ」『DIAMOND ハーバード・ビジネス』2月 : 44-54).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2001. *The Strategy-Focused Organization : How Balanced Scorecard Companies Thrive in the New Business Environment*. Boston MA : Harvard School Press (櫻井通晴監訳. 2001. 『キャプランとノートの戦略バランスト・スコアカード』東洋経済新報社).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2004 a. *Strategy Maps : Converting Intangible Assets into Tangible Outcomes*. Boston MA : Harvard Business School Press (櫻井通晴・伊藤和憲・長谷川恵一監訳. 2005. 『戦略マップ』ランダムハウス講談社).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2004 b. *Measuring the Strategic Readiness of Intangible Assets*. *Harvard Business Review* February : 52-63. (スコフィールド素子訳. 2004. 「バランスト・スコアカードによる無形資産の価値評価」『DIAMOND ハーバード・ビジネス』5月 : 129-142).
- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2006. *Alignment : Using the Balanced Scorecard to Create Corporate Synergies*. Boston MA : Harvard Business School Press (櫻井通晴・伊藤和憲監訳. 2007. 『BSC によるシナジー戦略ー組織のアラインメントに向けて』ランダムハウス講談社).

- Kaplan, R. S. and D. P. Norton. 2008. *The Execution Premium : Linking Strategy to Operations for Competitive Advantage*. Boston MA : Harvard Business School Press（櫻井通晴・伊藤和憲監訳. 2009. 『バランスト・スコアカードによる戦略実行のプレミアム』 東洋経済社）.
- Shields, M. D. 1997. Research in Management Accounting by North Americans in the 1990s. *Journal of Management Accounting Research* 9 : 3-61.
- Young, S. M. and F. H. Selto. 1991. New Manufacturing Practices and Cost Management : A Review of the Literature and Directions for Research. *Journal of Accounting Literature* 10 : 265-298.

補足資料①

BSC 書誌学データ集計コード

①BSC 研究サイト

- 1 : 製造業
- 2 : 非製造業
- 3 : 営利組織全体
- 4 : 非営利組織
- 5 : 全種類の組織
- 6 : 研究サイトなし
- 7 : 不明

②BSC 研究方法

- 1 : 規範的研究
- 2 : ケース／フィールド
- 3 : サーベイ (実証研究)
- 4 : サーベイ (実態調査)
- 5 : アーカイバル
- 6 : 文献レビュー
- 7 : 分析的研究
- 8 : 実験
- 9 : 複数の方法
- 10 : その他

③BSC 研究の理論ベース

- 1 : 経済学
- 2 : 社会学
- 3 : 心理学／行動科学
- 4 : 複合
- 5 : その他・不明

④BSC 研究コンテンツ

- 1 : 組織コンテキスト
- 2 : 戦略
- 3 : 技法 (単独)
- 4 : 技法 (複合)
- 5 : 内部業績
- 6 : 外部業績
- 7 : 行動 (導入局面)
- 8 : 行動 (利用局面)
- 9 : その他

⑤発行年

- 1 : 1992-1995
- 2 : 1996-2000
- 3 : 2001-2005
- 4 : 2006-2010

補足資料②

BSC 書誌学データベース

1. わが国主要会計雑誌

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
1	吉川 (1998)	企業会計	1998	6	1	5	3			
2	西澤 (1999)	企業会計	1999	6	1	5	3			
3	伊藤・小酒井 (2001)	企業会計	2001	6	1	5	3	4		
4	吉川 (2001)	企業会計	2001	6	1	5	3			
5	森沢 (2001)	企業会計	2001	1	2	5	3	7	8	
6	長谷川・清水 (2001)	企業会計	2001	6	1	5	3			
7	浜田 (2001)	企業会計	2001	6	1	5	4			
8	廣本 (2001)	企業会計	2001	6	1	5	3			
9	櫻井 (2001a)	企業会計	2001	6	1	5	3	8		
10	櫻井 (2001b)	企業会計	2001	6	1	5	4			
11	吉川 (2002)	企業会計	2002	6	1	5	3			
12	荒井 (2002)	企業会計	2002	6	1	5	3			
13	李 (2002)	企業会計	2002	6	1	5	3			
14	櫻井 (2002)	企業会計	2002	6	1	5	7	8		
15	彌園 (2003)	企業会計	2003	2	2	5	7			

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
16	伊藤（2003）	企業会計	2003	6	1	5	4			
17	小倉（2003）	企業会計	2003	3	4	5	3			
18	小林（2003）	企業会計	2003	6	1	5	3			
19	松原（2003）	企業会計	2003	6	1	5	8			
20	清水（2003）	企業会計	2003	6	1	5	3			
21	末吉（2003）	企業会計	2003	1	2	5	7			
22	櫻井（2003）	企業会計	2003	6	1	5	3			
23	田中（2003）	企業会計	2003	6	1	5	3			
24	南雲（2003）	企業会計	2003	6	1	5	3			
25	今福（2004）	企業会計	2004	6	1	5	4			
26	松本（2004）	企業会計	2004	6	1	5	4	7		
27	泰（2004）	企業会計	2004	6	1	5	3			
28	浅田（2004）	企業会計	2004	6	1	5	3			
29	谷（2004）	企業会計	2004	4	2	5	3	8		
30	藤野・挽（2004）	企業会計	2004	1	2	5	8			
31	林（2004）	企業会計	2004	3	4	5	7	8		
32	鈴木（2004）	企業会計	2004	6	1	5	3			
33	伊藤和憲（2006）	企業会計	2006	4	2	5	7			
34	望月（2006）	企業会計	2006	6	1	5	3			
35	河合・乙政（2007）	企業会計	2007	2	2	5	8			
36	長谷川（2007）	企業会計	2007	2	2	5	7			
37	山下（2009）	企業会計	2009	6	1	5	3			
38	前田（2009）	企業会計	2009	6	1	5	3			
39	中嶋（2009）	企業会計	2009	4	2	5	7			
40	小菅（1999）	産業経理	1999	6	1	5	4			
41	櫻井（2000）	産業経理	2000	6	1	5	3			
42	櫻井（2002）	産業経理	2002	6	1	5	3			
43	伊藤（2003）	産業経理	2003	6	1	5	4			
44	杉山（2003）	産業経理	2003	6	1	5	3			
45	櫻井（2003）	産業経理	2003	6	1	5	3			
46	馬場（2004）	産業経理	2004	1	2	5	7			
47	和手（2004）	産業経理	2004	6	1	5	3			
48	谷（2005）	産業経理	2005	4	2	5	7			
49	櫻井（2007）	産業経理	2007	4	2	5	7	8		
50	奥（2008）	産業経理	2008	6	1	5	3			
51	松村（2009）	産業経理	2009	6	1	5	3			
52	清水（2009）	産業経理	2009	6	1	5	3			
53	中嶋（2009）	産業経理	2009	6	1	5	3			
54	片岡・小泉（2009）	産業経理	2009	6	1	5	3			
55	長谷川（2010）	産業経理	2010	6	1	5	3			
56	川野（1999）	原価計算研究	1999	6	1	5	3			
57	古田（2000）	原価計算研究	2000	6	1	5	3			
58	長谷川（2002）	原価計算研究	2002	6	1	5	3			
59	伊藤・小酒井（2003）	原価計算研究	2003	6	1	5	3			
60	河合（2004）	原価計算研究	2004	1	4	5	8			
61	伊藤（2005）	原価計算研究	2005	7	2	5	4			
62	乙政（2005）	原価計算研究	2005	1	2	5	7			
63	山田・伊藤（2005）	原価計算研究	2005	6	1	5	4			
64	谷他（2005）	原価計算研究	2005	4	5	5	7			

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
65	小酒井・伊藤 (2006)	原価計算研究	2006	6	1	5	3			
66	清水 (2007)	原価計算研究	2007	6	1	5	4			
67	乙政・梶原 (2009)	原価計算研究	2009	1	3	4	1	2	7	
68	渡邊 (2009)	原価計算研究	2009	4	3	3	5	8		
69	安酸他 (2010)	原価計算研究	2010	6	6	5	3			
70	岡 (2010)	原価計算研究	2010	6	1	5	3			
71	丸田 (2004)	管理会計学	2004	6	1	5	3			
72	伊藤 (2006)	管理会計学	2006	6	1	5	3			
73	南雲 (2006)	管理会計学	2006	6	1	5	4			
74	林 (2006)	管理会計学	2006	1	2	5	4	7		
75	清水 (1997)	会計	1997	6	1	5	3			
76	古田 (1998)	会計	1998	6	1	5	3			
77	飯塚 (1998)	会計	1998	6	1	5	3			
78	小林 (2000)	会計	2000	6	1	5	3			
79	小菅 (2001)	会計	2001	6	1	5	4			
80	田中 (2002)	会計	2002	6	1	5	3			
81	櫻井 (2002)	会計	2002	6	1	5	3			
82	伊藤 (2003)	会計	2003	6	1	5	4			
83	荒井 (2003)	会計	2003	6	1	5	3			
84	諸藤 (2003)	会計	2003	6	1	5	3			
85	小倉 (2003)	会計	2003	6	1	5	3			
86	飯島 (2003)	会計	2003	6	1	5	3			
87	乙政 (2004)	会計	2004	1	4	5	1	7		
88	櫻井 (2004)	会計	2004	6	1	5	3			
89	青木・間普 (2005)	会計	2005	1	5	5	3			
90	藤野 (2005)	会計	2005	6	1	5	7			
91	小倉 (2006)	会計	2006	3	4	5	4	7		
92	星野 (2006)	会計	2006	6	1	5	1	2	3	5
93	林 (2006)	会計	2006	3	4	5	4	5	7	
94	澤邊 (2006)	会計	2006	6	1	5	1	4	7	
95	谷守 (2007)	会計	2007	6	1	5	3			

2. 欧米主要会計学術雑誌

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
1	Lipe & Salterio (2002)	AOS	2002	6	8	3	3	8		
2	Ittner et al. (2003)	AOS	2003	2	3	4	2	6	8	
3	Nørreklit (2003)	AOS	2003	6	6	5	9			
4	Moers (2005)	AOS	2005	1	5	3	8			
5	Henri (2006b)	AOS	2006	1	3	5	1	8		
6	Wong-On-Wing et al. (2007)	AOS	2007	6	8	3	8			
7	Grafton et al. (2010)	AOS	2010	3	3	4	6	8		
8	Knechel et al. (2010)	AOS	2010	6	8	3	8			
9	van Veen-Dirks (2010)	AOS	2010	1	3	4	1	2	8	
10	Cardinaels & van Veen-Dirks (2010)	AOS	2010	6	8	3	3	8		
11	Otley (1999)	MAR	1999	6	6	5	3			
12	Kloot & Martin (2000)	MAR	2000	4	2	5	7			
13	Nørreklit (2000)	MAR	2000	6	6	5	3			

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
14	Kasurinen (2002)	MAR	2002	1	2	5	1	7		
15	Rouse et al. (2002)	MAR	2002	2	5	5	3			
16	Speckbacher et al. (2003)	MAR	2003	3	4	5	7	8		
17	Bourguignon et al. (2004)	MAR	2004	6	1	2	1	3		
18	Davis & Albright (2004)	MAR	2004	2	5	5	6			
19	Malina & Selto (2004)	MAR	2004	1	2	2	2	8		
20	Ax & Bjørnenak (2005)	MAR	2005	6	6	5	7			
21	Tuomela (2005)	MAR	2005	1	2	5	7			
22	Busco et al. (2007)	MAR	2007	1	2	2	7	8		
23	Li & Tang (2009)	MAR	2009	2	2	5	1	8		
24	Wiersma (2009)	MAR	2009	3	4	5	8			
25	Kraus & Lind (2010)	MAR	2010	3	2	5	1	8		
26	Ullrich & Tuttle (2004)	BRIA	2004	6	8	4	8			
27	Roberts et al. (2004)	BRIA	2004	6	8	3	3	8		
28	Dilla & Steinbart (2005)	BRIA	2005	6	8	3	8			
29	Lau & Moser (2008)	BRIA	2008	1	3	3	5	8		
30	Liedtka et al. (2008)	BRIA	2008	6	8	3	8			
31	Kaplan & Wisner (2009)	BRIA	2009	6	8	3	3	8		
32	Hoque & James (2000)	JMAR	2000	1	3	2	1	6	8	
33	Malina & Selto (2001)	JMAR	2001	1	2	5	8			
34	Smith (2002)	JMAR	2002	6	7	1	8			
35	Bryant et al. (2004)	JMAR	2004	3	5	5	3			
36	Smith & Wright (2004)	JMAR	2004	1	5	5	3			
37	Demski et al. (2008)	JMAR	2008	6	7	1	3			
38	Dikolli et al. (2009)	JMAR	2009	6	7	1	3			
39	Aranda & Arellano (2010)	JMAR	2010	2	2	5	3	5	8	
40	Buddle (2007)	JAR	2007	6	7	1	3	8		
41	Campbell (2008)	JAR	2008	2	5	1	8			
42	Malina et al. (2007)	CAR	2007	1	5	5	3	8		
43	Lipe & Salterio (2000)	TAR	2000	6	8	3	3	8		
44	Ittner et al. (2003)	TAR	2003	2	5	4	8			
45	Banker et al. (2004)	TAR	2004	6	8	3	8			
46	Libby et al. (2004)	TAR	2004	6	8	4	8			
47	Taylor (2010)	TAR	2010	6	8	3	3	8		

3. 欧米主要会計実務雑誌

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
1	Maisel (1992)	JCM	1992	6	1	5	3			
2	Hoffecker & Goldenberg (1994)	JCM	1994	3	2	5	3	7	8	
3	Curtis & Ellis (1997)	JCM	1997	7	1	5	3			
4	Hribar et al. (1997)	JCM	1997	1	2	5	8			
5	Epstein & Roy (1997)	JCM	1997	6	1	5	3			
6	Dion (2000)	JCM	2000	6	1	5	3			
7	Syfert & Schumacher (2000)	JCM	2000	4	2	5	7			
8	Thor (2000)	JCM	2000	6	1	5	3			
9	Hornsby & Baxendale (2001)	JCM	2001	6	1	5	3			
10	Kaplan & Narayanan (2001)	JCM	2001	6	1	5	4			
11	Niven (2001)	JCM	2001	6	1	5	3			

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイ	ト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
12	Schneiderman (2001)	JCM	2001	1		2	5	8			
13	Sharma & Hoque (2001)	JCM	2001	4		2	5	7			
14	Whitaker (2001)	JCM	2001	6		1	5	4			
15	Brewton & Schiemann (2003)	JCM	2003	6		1	5	3			
16	Lyons et al. (2003)	JCM	2003	4		2	5	4	8		
17	Thor (2003)	JCM	2003	6		1	5	3			
18	Feuss et al. (2004)	JCM	2004	2		2	5	3			
19	Gumbus et al. (2004)	JCM	2004	4		2	5	7			
20	Kittredge (2004)	JCM	2004	6		1	5	3			
21	Nathan & Pelfrey (2004)	JCM	2004	4		2	5	8			
22	Brewer et al. (2005)	JCM	2005	2		2	5	3			
23	Bush (2005)	JCM	2005	4		2	5	8			
24	Liedtka (2005)	JCM	2005	6		1	5	4			
25	Beiman (2006)	JCM	2006	3		2	5	1	7		
26	Dhingra (2006)	JCM	2006	2		2	5	8			
27	Grasso (2006)	JCM	2006	6		1	5	3	4		
28	Nagumo & Donlon (2006)	JCM	2006	6		1	5	4			
29	Shenkir & Walker (2006)	JCM	2006	6		1	5	4			
30	Weiser (2006)	JCM	2006	7		2	5	8			
31	Theriou et al. (2007)	JCM	2007	6		1	5	4			
32	McNair & Watts (2009)	JCM	2009	6		1	5	3			
33	Joshi & Krishnan (2010)	JCM	2010	6		1	5	3			
34	Chow et al. (1997)	IMA(MA・SF・MAQ)	1997	3		4	5	3	7	8	
35	Epstein & Manzoni (1997)	IMA(MA・SF・MAQ)	1997	6		1	5	3	7		
36	Clinton & Hsu (1997)	IMA(MA・SF・MAQ)	1997	6		1	5	4			
37	Silk (1998)	IMA(MA・SF・MAQ)	1998	6		1	5	3			
38	Tatikonda & Tatikonda (1998)	IMA(MA・SF・MAQ)	1998	6		1	5	3	7		
39	Forsythe (1999)	IMA(MA・SF・MAQ)	1999	4		2	5	7			
40	Frigo & Krumwiede (2000) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2000	6		1	5	7			
41	Kershaw & Kershaw (2001)	IMA(MA・SF・MAQ)	2001	7		2	5	7			
42	Clinton et al. (2002)	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	6		1	5	4			
43	Brewer (2002) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	6		1	5	3			
44	Frigo (2002 a) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	6		1	5	3			
45	Green et al. (2002) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	2		1	5	7			
46	Gumbus et al. (2002) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	4		2	5	7			
47	Gumbus & Lyons (2002) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2002	1		2	5	7			
48	Jalbert & Landry (2003)	IMA(MA・SF・MAQ)	2003	6		1	5	3			
49	McNelis & Whitsett (2003)	IMA(MA・SF・MAQ)	2003	6		1	5	3			
50	McWhorter (2003)	IMA(MA・SF・MAQ)	2003	7		4	5	8			
51	Pineno & Cristini (2003)	IMA(MA・SF・MAQ)	2003	1		2	5	7			
52	Gumbus & Johnson (2003) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2003	1		2	5	7			
53	Pineno (2004)	IMA(MA・SF・MAQ)	2004	1		4	5	8			
54	Searcy (2004)	IMA(MA・SF・MAQ)	2004	6		10	5	4			
55	Epstein & Roy (2004) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2004	6		1	5	3			
56	Lyons & Gumbus (2004) SF	IMA(MA・SF・MAQ)	2004	1		2	5	7			
57	Holmen (2005)	IMA(MA・SF・MAQ)	2005	6		1	5	3			
58	Hughes et al. (2005)	IMA(MA・SF・MAQ)	2005	6		10	5	3			
59	Joseph & George (2005)	IMA(MA・SF・MAQ)	2005	6		1	5	3			
60	White (2005)	IMA(MA・SF・MAQ)	2005	6		1	5	4			

No.	著者名	雑誌名	発行年	サイト	方法	理論	内容(1)	内容(2)	内容(3)	内容(4)
61	Epstein & Rejc (2005) SF	IMA (MA・SF・MAQ)	2005	6	1	5	3			
62	Paladino (2005) SF	IMA (MA・SF・MAQ)	2005	2	2	5	7			
63	Pforsich (2005) SF	IMA (MA・SF・MAQ)	2005	6	1	5	4			
64	DeBusk & Crabtree (2006)	IMA (MA・SF・MAQ)	2006	7	4	5	8			
65	Bible et al. (2006)	IMA (MA・SF・MAQ)	2006	6	1	5	3			
66	Beasley et al. (2006) SF	IMA (MA・SF・MAQ)	2006	6	1	5	4			
67	Gjerde & Hughes (2007)	IMA (MA・SF・MAQ)	2007	6	1	5	3			
68	Chen & Jones (2009)	IMA (MA・SF・MAQ)	2009	6	4	5	8			
69	Biggart et al. (2010)	IMA (MA・SF・MAQ)	2010	2	3	5	8			
70	Cheffi et al. (2010)	IMA (MA・SF・MAQ)	2010	6	1	5	3			
71	Gates & Germain (2010)	IMA (MA・SF・MAQ)	2010	3	4	5	4	8		
72	Hazell & Morrow (1992)	CIMA (MA・FM)	1992	6	1	5	3			
73	Newing (1995)	CIMA (MA・FM)	1995	6	1	5	3	4		
74	Binnersley (1996)	CIMA (MA・FM)	1996	6	1	5	3			
75	Booth (1996 a)	CIMA (MA・FM)	1996	6	1	5	3			
76	Booth (1996 b)	CIMA (MA・FM)	1996	6	1	5	3			
77	Evans et al. (1996)	CIMA (MA・FM)	1996	6	1	5	3			
78	Booth (1997)	CIMA (MA・FM)	1997	6	1	5	3			
79	Smith (1997 a)	CIMA (MA・FM)	1997	6	1	5	3	4		
80	Smith (1997 b)	CIMA (MA・FM)	1997	6	1	5	3	4		
81	McCunn (1998)	CIMA (MA・FM)	1998	6	1	5	7			
82	Smith (1998 b)	CIMA (MA・FM)	1998	6	1	5	3			
83	Gering & Rosmarin (2000)	CIMA (MA・FM)	2000	6	1	5	3			
84	McCann (2000)	CIMA (MA・FM)	2000	6	1	5	7			
85	Prendergast (2000)	CIMA (MA・FM)	2000	6	1	5	3	4		
86	Roslender (2000)	CIMA (MA・FM)	2000	6	1	5	3			
87	Marr (2001) FM	CIMA (MA・FM)	2001	6	1	5	3			
88	Mendoza & Zrihen (2001) FM	CIMA (MA・FM)	2001	2	2	5	3	7		
89	Bourne & Neely (2002) FM	CIMA (MA・FM)	2002	6	1	5	3			
90	Woodley (2002) FM	CIMA (MA・FM)	2002	4	2	5	7			
91	Smith (2005) FM	CIMA (MA・FM)	2005	6	1	5	3			
92	Likierman (2006) FM	CIMA (MA・FM)	2006	6	1	5	7			
93	Ye & Seal (2009) FM	CIMA (MA・FM)	2009	2	2	5	7			

補足資料③

BSC 論文リスト（広義）

以下、文頭に「＊」を付した論文は、「狭義の BSC 論文」であることを示している。また、補足資料②と掲載順は異なる。

わが国主要会計雑誌

『会計』

1995 年

溝口周二. 1995. 「情報システムに関する戦略的投資の評価」『会計』147(1)：15-30.

1996 年

吉川武男. 1996. 「総合的原価管理システムに関する一考察」『会計』149(4) : 505-520.

1997 年

* 清水孝. 1997. 「戦略的管理会計への管理会計領域の拡大」『会計』152(2) : 214-226.

田中隆雄. 1997. 「ブランド・エクイティとブランド価値」『会計』152(3) : 311-327.

1998 年

* 飯塚勲. 1998. 「業績指標と戦略的管理会計」『会計』154(4) : 552-569.

小林啓孝. 1998. 「管理会計変貌の視点」『会計』153(3) : 394-406.

田中隆雄. 1998. 「EVA の理論的基礎および実務における有用性 (一)」『会計』154(6) : 815-826.

* 古田隆紀. 1998. 「エンパワメントと管理会計」『会計』153(1) : 101-116.

1999 年

* 小林哲夫. 1999. 「戦略的管理会計に関する一考察－アカウンタビリティのスタイルとプロセス」『会計』155(1) : 1-12.

溝口周二. 1999. 「情報技術の事業価値とその評価」『会計』156(3) : 323-335.

2000 年

小林哲夫. 2000. 「BSC と戦略的マネジメント」『会計』158(5) : 625-637.

清水孝. 2000. 「わが国組立産業における原価計算および原価管理の再検討」『会計』157(2) : 243-254.

田中隆雄. 2000. 「日本の管理会計とグローバル・スタンダード」『会計』157(3) : 199-218.

2001 年

古賀健太郎. 2001. 「原価企画に関する未解決の研究課題」『会計』159(1) : 13-29.

* 小菅正伸. 2001. 「活動基準スコアカード－顧客価値を中心として－」『会計』160(6) : 884-896.

田中隆雄. 2001. 「企業戦略に関連するコストの管理」『会計』159(1) : 62-75.

2002 年

梶原武久. 2002. 「非財務的業績指標と報酬システム」『会計』162(5) : 715-727.

* 櫻井通晴. 2002. 「日本の管理会計構築を志向した理論構築」『会計』162(6) : 771-784.

* 田中隆雄. 2002. 「戦略の実行と業績評価－戦略的マネジメント・システムに関連して－」『会計』161(4) : 477-491.

2003 年

* 荒井耕. 2003. 「医療分野における管理会計の展開－私企業管理会計の活用－」『会計』163(5) : 717-729.

* 飯島康道. 2003. 「流通業における SCM とスコアカード－ECR 取組の評価と ECR スコアカードのグローバル化を中心として－」『会計』164(6) : 849-862.

* 伊藤嘉博. 2003. 「BSC をめぐる主要な論点－グローバルスタンダード経営の羅針盤－」『会計』163(3) : 204-220.

大下丈平. 2003. 「フランス管理会計の方法とその射程－グローバル体制下での管理会計の課題に向けて－」『会計』163(3) : 178-193.

* 小倉昇. 2003. 「グローバル基準の企業評価と管理会計の課題」『会計』163(3) : 221-233.

* 諸藤裕美. 2003. 「中核技術蓄積のための管理会計システム」『会計』164(5) : 655-667.

2004 年

伊藤克容. 2004. 「無形資産の蓄積・活用に関する管理会計研究の動向」『会計』165(5)：663-677.

伊藤邦雄. 2004. 「無形資産会計の論点」『会計』165(5)：645-662.

王文英・廣本敏郎. 2004 a. 「知的資本蓄積と管理会計（一）－台湾企業六社の実証研究－」『会計』165(5)：731-740.

王文英・廣本敏郎. 2004 b. 「知的資本蓄積と管理会計（二・完）－台湾企業六社の実証研究－」『会計』165(6)：903-912.

大下丈平. 2004. 「マネジメントのパラドックス性と管理会計－管理会計の国際比較の一視点」『会計』165(1)：81-94.

* 乙政佐吉. 2004. 「わが国企業のバランスト・スコアカード導入に対する促進要因の分析」『会計』166(5)：767-779.

梶原武久. 2004. 「顧客満足度と報酬システム－IT 企業の事例に基づく考察－」『会計』165(3)：396-408.

* 櫻井通晴. 2004. 「バランスト・スコアカードの起源」『会計』166(1)：1-16.

中村彰良. 2004. 「経営管理者等の業績評価への無形資産価値情報の利用可能性」『会計』165(6)：889-902.

2005 年

* 青木雅明・間普崇. 2005. 「企業価値と特許出願数－非財務指標としての特許出願数とその意味」『会計』168(5)：692-703.

* 藤野雅史. 2005. 「アメリカ政府の予算制度改革と管理会計論の展開」『会計』168(6)：832-847.

松尾貴巳. 2005. 「非財務指標による業績評価システムの有効性に関する実証分析－自動車メーカー A 社のケース－」『会計』167(3)：396-408.

2006 年

浅田孝幸. 2006. 「企業の研究開発と管理会計－R&D プロセスマネジメントの検討－」『会計』169(5)：649-666.

新江孝・伊藤克容. 2006. 「経営戦略と管理会計との関係性－将来の研究の方向性についての一提言－」『会計』170(1)：27-36.

* 小倉昇. 2006. 「戦略コミュニケーションのための管理会計システムの設計について」『会計』170(4)：471-484.

坂手啓介・山口直也・長坂悦敬・李健泳. 2006. 「日韓企業におけるプロセス・マネジメント－調査モデルと企業実態の実証分析－」『会計』170(5)：712-726.

* 澤邊紀生. 2006. 「管理会計の公共性－外部報告と管理会計技法－」『会計』169(2)：186-205.

高橋聡. 2006. 「知的資産報告の可能性」『会計』170(6)：881-896.

* 林攝子. 2006. 「マネジメント・システムの統合による戦略共有と戦略実行への効果について」『会計』169(6)：913-927.

* 星野優太. 2006. 「コンティンジェンシー理論による戦略管理会計の再構築」『会計』170(3)：379-394.

松尾貴巳. 2006. 「地方公共団体における業績評価システムの導入研究－管理会計上の意義と課題－」『会計』169(3)：403-416.

2007 年

櫻井通晴. 2007. 「コーポレート・レピュテーション研究の学界への貢献の可能性－歴史的アプローチによる将来の研究の予測にもとづいて－」『会計』171(4)：522-537.

* 谷守正行. 2007. 「銀行管理会計に対するリスク管理の影響」『会計』172(3)：382-393.

細海昌一郎. 2007. 「企業特性からみた無形資産と企業価値の関連性－ハイテク産業とローテク産業の価値関連性に関する研究－」『会計』171(6)：815-830.

2008 年

河合隆治. 2008. 「顧客関係マネジメントにおける管理会計の役割」『会計』174(2) : 204-215.

2010 年

横田総理. 2010. 「日本企業の組織内分権化と水平的インターラクティブ」『会計』177(3) : 396-410.

『原価計算研究』

1998 年

小林啓孝. 1998. 「原価計算の新しい展開-21世紀の産業社会に向けて-」『原価計算研究』22(1) : 1-12.

1999 年

上埜進. 1999. 「利益管理の今日的課題-価値創出の経営-」『原価計算研究』23(1) : 12-24.

* 川野克典. 1999. 「戦略的コストマネジメントと業績評価基準」『原価計算研究』23(1) : 64-77.

2000 年

* 古田隆紀. 2000. 「『バランスト・スコアカード』再論」『原価計算研究』24(2) : 58-70.

2001 年

伊藤克容. 2001. 「投資責任センターの業績測定尺度に関する考察」『原価計算研究』25(2) : 38-46.

2002 年

木村彰吾. 2002. 「ネットワーク時代の管理会計」『原価計算研究』26(1) : 12-19.

* 長谷川恵一. 2002. 「戦略的経営と管理会計-バランスト・スコアカードの可能性-」『原価計算研究』26(1) : 1-11.

渡邊俊輔・伊藤克容. 2002. 「組織学習を促進するマネジメント・コントロール-管理会計の新たな体系化の視点-」『原価計算研究』26(1) : 32-46.

2003 年

* 伊藤和憲・小酒井正和. 2003. 「BSC ソフトの必要性」『原価計算研究』27(2) : 49-58.

2004 年

* 河合隆治. 2004. 「財務的指標と非財務的指標の業種別分析」『原価計算研究』28(2) : 57-70.

2005 年

* 伊藤嘉博. 2005. 「戦略志向組織における予算管理~BSC との関係を軸とした検討~」『原価計算研究』29(1) : 25-34.

* 乙政佐吉. 2005. 「わが国企業のバランスト・スコアカード導入における促進・阻害要因に関する研究-A社のケースを通じて-」『原価計算研究』29(1) : 58-73.

* 谷武幸・三矢裕・松尾貴巳. 2005. 「新須磨病院整形外科におけるBSCの導入についての時系列分析-アクションリサーチとエンピリカルリサーチの統合アプローチ-」『原価計算研究』29(1) : 35-46.

* 山田義昭・伊藤和憲. 2005. 「BSC と方針管理における役割期待とその関係-戦略プロセスとの関連を中心に-」『原価計算研究』29(1) : 47-57.

2006 年

大下丈平. 2006. 「フランス分析会計・管理会計の基本思考-国際比較管理会計の視点から-」『原価計算研究』30(1) : 1-9.

*小酒井正和・伊藤和憲. 2006. 「無形の資産を創造する IT マネジメントのあり方－BSC フレームワークに基づく情報資本の構築－」『原価計算研究』30(2)：42-52.

西居豪. 2006. 「非財務指標の戦略的適合度に関する実証分析」『原価計算研究』30(2)：53-62.

2007 年

梶原武久. 2007. 「品質指標が出荷額に及ぼす影響に関する実証分析」『原価計算研究』31(1)：24-35.

加登豊・石川潔・大浦啓輔・新井康平. 2007. 「わが国の経営企画部の実態調査－質問票調査に基づく分析－」『原価計算研究』31(1)：52-62.

佐々木郁子・鈴木研一. 2007. 「顧客関係性評価のための収益概念－固定収益の提唱－」『原価計算研究』31(2)：1-10.

*清水孝. 2007. 「Beyond Budgeting が持つ 2 つの意義－組織変革との関わり－」『原価計算研究』31(1)：14-23.

三矢裕. 2007. 「日次決算導入がもたらす組織行動への影響－株式会社ドンクにおけるアクションリサーチ－」『原価計算研究』31(1)：1-13.

2008 年

梶原武久. 2008. 「品質コスト測定の効果に関する実証研究－サーベイデータに基づく分析－」『原価計算研究』32(1)：42-53.

佐々木郁子. 2008. 「フリークエンシー・プログラムを利用した固定収益マネジメントの可能性」『原価計算研究』32(1)：12-22.

2009 年

*乙政佐吉・梶原武久. 2009. 「バランスト・スコアカード実践の決定要因に関する研究」『原価計算研究』33(2)：1-13.

末松栄一郎. 2009. 「複数業績目標のバランストに関する研究－住宅設備販売会社 A 社の事例研究－」『原価計算研究』33(2)：36-44.

*渡邊直人. 2009. 「バランスト・スコアカードが戦略意識および内発的動機付けとの関係性に及ぼす効果－わが国病院を対象とした定量分析－」『原価計算研究』33(2)：14-23.

2010 年

*岡照二. 2010. 「環境コストマネジメントにおける環境パフォーマンス指標の役割－SBSC 構築に向けて－」『原価計算研究』34(1)：91-101.

目時壮浩. 2010. 「公共サービスにおける目標原価管理－大分県庁におけるフィールドリサーチをもとに－」『原価計算研究』34(1)：66-77.

*安酸建二・乙政佐吉・福田直樹. 2010. 「バランスト・スコアカード研究の現状と課題－実証研究のレビューに基づく検討－」『原価計算研究』34(1)：1-12.

『管理会計学』

1997 年

Fitzgerald, L. and P. Moon. 1997. The Influence of Service Process on Performance Measurement. 『管理会計学』5(2)：7-27.

2000 年

浜田和樹. 2000. 「非財務的尺度と財務的尺度の総合－総合的マネジメントと管理会計－」『管理会計学』8(1・2)：33-50.

2003 年

堀井悟志. 2003. 「マネジメント・コントロール論の変化と戦略管理会計論」『管理会計学』11(2) : 57-69.

2004 年

浜田和樹. 2004. 「企業価値モデルと目標・施策展開－特にステークホルダー間の利害調整を重視した適用について－」『管理会計学』12(2) : 47-59.

* 丸田起大. 2004. 「戦略経営と管理会計－フィードフォワード・コントロールの視点から－」『管理会計学』12(2) : 19-33.

2006 年

* 伊藤嘉博. 2006. 「戦略マネジメントシステムとしてのバランスト・スコアカードの現状と展望－その基本構造の普遍性と拡張性に関する検討－」『管理会計学』14(2) : 65-76.

* 南雲岳彦. 2006. 「戦略管理とエンタープライズ・リスク管理の統合アプローチ－BSC と COSO ERM の統合フレームワークの検討－」『管理会計学』14(2) : 41-53.

* 林昌芳. 2006. 「シャープグループの戦略実行と戦略目標のカスケード」『管理会計学』14(2) : 55-64.

2007 年

山本宣明. 2007. 「我が国大規模病院の業績評価システムと自律性に関する実証分析」『管理会計学』15(2) : 109-126.

2009 年

丹生谷晋. 2009. 「分権型組織における業績評価システムに関する実証研究」『管理会計学』17(1) : 39-55.

古賀健太郎. 2009. 「無形資産に関する米国の視点と日本での応用可能性」『管理会計学』17(2) : 65-78.

2010 年

櫻井通晴. 2010. 「インタングИБルズとレピュテーション・マネジメント」『管理会計学』18(2) : 41-51.

『会計プロGRESS』

2002 年

門田安弘. 2002. 「事業評価と管理者評価への日本的特色の導入」『会計プロGRESS』3 : 22-30.

2003 年

廣本敏郎. 2003. 「無形資産の蓄積・活用と管理会計」『会計プロGRESS』4 : 20-34.

2005 年

林攝子. 2005. 「マネジメント・システム間の統合化と戦略共有効果について－中期経営計画, 予算管理, 目標管理の相互補完関係に関する考察－」『会計プロGRESS』6 : 86-102.

2009 年

藤野雅史. 2009. 「公的部門における管理会計の統合プロセス－米国連邦政府の業績予算－」『会計プロGRESS』10 : 84-100.

『メルコ管理会計研究』

2009 年

丹生谷晋・小倉昇. 2009. 「わが国企業における業績評価指標活用の実態分析－分権型組織を対象として－」『メルコ管理会計研究』2 : 23-37.

『産業経理』

1999 年

- * 小菅正伸. 1999. 「戦略管理会計の課題－活動基準予算管理を中心として－」『産業経理』 59(2) : 54-61.

2000 年

- * 櫻井通晴. 2000. 「バランスト・スコアカードの生成・沿革とその特徴」『産業経理』 60(2) : 2-10.

2001 年

- 西村優子. 2001. 「企業価値増大と研究開発戦略の会計情報」『産業経理』 61(1) : 50-58.
- 本橋正美. 2001. 「会計情報システムの機能」『産業経理』 61(2) : 39-45.

2002 年

- * 櫻井通晴. 2002. 「バランスト・スコアカードの業績評価への役立ち」『産業経理』 62(2) : 4-13.

2003 年

- * 伊藤嘉博. 2003. 「バランスト・スコアカードと予算との有機的連携の意義と可能性」『産業経理』 63(3) : 82-89.
- * 櫻井通晴. 2003. 「情報システム投資の評価へのバランスト・スコアカードの活用」『産業経理』 63(2) : 4-11.
- * 杉山善浩. 2003. 「IT 投資の評価における BSC 援用アプローチの有用性」『産業経理』 63(1) : 34-42.

2004 年

- * 馬場博伸. 2004. 「BSC マネジメントについての考察」『産業経理』 64(2) : 80-93.
- * 和手伸泰. 2004. 「経営品質スコアカードの試み」『産業経理』 63(4) : 91-104.

2005 年

- * 谷武幸. 2005. 「医療経営へのバランスト・スコアカードの導入－新須磨病院のケース－」『産業経理』 65(1) : 14-27.

2007 年

- * 櫻井通晴. 2007. 「医療機関における経営企画部の役割－バランスト・スコアカードと ABC の導入・推進を中心に－」『産業経理』 67(4) : 28-38.
- 陶山博太. 2007. 「経理部門はフロントラインを支援できるか」『産業経理』 67(1) : 87-96.

2008 年

- * 奥倫陽. 2008. 「戦略実行の業績評価システムに関する研究－SLAS, BSC, レディネス評価, アラインメント評価を中心として－」『産業経理』 68(2) : 131-139.

2009 年

- 伊藤和憲. 2009. 「インタングIBLEズ測定に関わる管理会計上の課題」『産業経理』 69(2) : 70-79.
- * 片岡洋一・小泉理絵. 2009. 「バランスト・スコアカード：多様性と因果関係」『産業経理』 69(4) : 4-17.
- * 清水孝. 2009. 「業績管理会計の現代的意義と体系」『産業経理』 69(2) : 110-122.
- * 中嶋教夫. 2009. 「Kaplan, Norton によるバランスト・スコアカードの理論的展開について－業績評価ツールから戦略マップまで－」『産業経理』 69(1) : 116-125.
- * 松村広志. 2009. 「BSC と戦略予算によるシナジーコストの管理」『産業経理』 69(2) : 162-169.
- 目時壮浩. 2009. 「非営利組織における管理会計の貢献可能性」『産業経理』 69(3) : 148-158.

2010 年

伊藤和憲. 2010. 「キリン・グループのインタングブルズ・マネジメント」『産業経理』70(3): 49-58.

* 長谷川恵一. 2010. 「バランスト・スコアカードについての疑問点」『産業経理』70(4): 61-72.

西村三保子. 2010. 「管理会計情報公開の実態調査」『産業経理』70(2): 149-160.

『企業会計』

1994 年

伊藤博. 1994. 「顧客志向の管理会計－リエンジニアリング促進のためのアジェンダー」『企業会計』46(7): 881-887.

1996 年

松島桂樹. 1996. 「情報システム投資の評価－プロセス志向の評価アプローチ」『企業会計』48(12): 1609-1614.

1998 年

伊藤博. 1998. 「製品志向から顧客志向の会計へ－顧客志向管理会計の可能性と課題へのアプローチ」『企業会計』50(2): 289-297.

川野克典. 1998. 「企業変革のための業績評価基準」『企業会計』50(7): 1088-1099.

* 吉川武男. 1998. 「企業価値創造の戦略的業績評価システム」『企業会計』50(7): 1083-1087.

1999 年

浅田孝幸. 1999. 「業績測定多元化・国際化の課題」『企業会計』51(4): 578-583.

櫻井通晴. 1999. 「わが国企業における業績評価のあり方」『企業会計』51(6): 932-939.

* 西澤脩. 1999. 「サプライチェーン・マネジメントのための管理会計」『企業会計』51(12): 1792-1801.

吉田春樹. 1999. 「多元的業績測定の実施企業の現状と課題」『企業会計』51(4): 617-623.

渡邊俊輔. 1999. 「フロントラインの業績管理システム－顧客とのコンタクトによる機会を活かすために－」『企業会計』51(6): 1076-1083.

2001 年

* 伊藤和憲・小酒井正和. 2001. 「バランスト・スコアカードに関するソフト評価」『企業会計』53(2): 61-67.

* 櫻井通晴. 2001 a. 「企業価値創造に役立つ管理会計の役割」『企業会計』53(2): 210-218.

* 櫻井通晴. 2001 b. 「バランスト・スコアカードと EVA, ABC の統合」『企業会計』53(9): 1236-1244.

西澤脩. 2001. 「分社化における企業再編の法制と会計」『企業会計』53(1): 113-121.

* 長谷川恵一・清水孝. 2001. 「バランスト・スコアカード経営における戦略マップの意義」『企業会計』53(2): 234-241.

* 浜田和樹. 2001. 「TOC の SCM・BSC への適用」『企業会計』53(11): 1551-1557.

挽文子. 2001. 「戦略経営時代のグループ・マネジメントと管理会計－分散経営の諸相と業績評価－」『企業会計』53(5): 664-671.

* 廣本敏郎. 2001. 「変革の時代の管理会計－ABC とバランスト・スコアカード－」『企業会計』53(1): 160-168.

* 森沢徹. 2001. 「バランスト・スコアカードを活用した経営改革の実際」『企業会計』53(2): 242-252.

* 吉川武男. 2001. 「戦略経営を支援するバランスト・スコアカード－ビジョンと戦略をアクションに落とし込む戦略経営時代の革新的マネジメント・システム－」『企業会計』53(5): 658-663.

2002 年

- * 荒井耕. 2002. 「米国病院会における BSC 浸透の背景・期待と評価」『企業会計』54(6)：867-875.
- * 櫻井通晴. 2002. 「業績評価へのバランスト・スコアカードの適用－シャーロット市へのバランスト・スコアカードの適用－」『企業会計』54(5)：612-619.
- * 李健泳. 2002. 「バランスト・スコアカードと日本的 TQM－ADI 社のコーポレート・スコアカードを手がかりとして－」『企業会計』54(2)：281-289.
- * 吉川武男. 2002. 「有視界経営からナビゲーション経営へ」『企業会計』54(8)：1076-1083.

2003 年

- * 伊藤嘉博. 2003. 「経営品質と BSC」『企業会計』55(5)：664-670.
- * 小倉昇. 2003. 「BSC と組織の学習能力」『企業会計』55(5)：671-677.
- * 小林啓孝. 2003. 「BSC と業績評価」『企業会計』55(5)：657-663.
- * 櫻井通晴. 2003. 「BSC の経営への役立ち」『企業会計』55(5)：642-647.
- * 清水孝. 2003. 「統合的戦略マネジメントへの発展－米国における BSC 最新動向を含めて－」『企業会計』55(5)：702-707.
- * 末吉進. 2003. 「パイオニアにおける経営品質向上と BSC」『企業会計』55(5)：696-701.
- * 田中隆雄. 2003. 「BSC による戦略的マネジメント・システムの構築」『企業会計』55(5)：648-656.
- * 南雲岳彦. 2003. 「銀行における戦略・内部統制システム強化と BSC」『企業会計』55(5)：684-689.
- 西村明. 2003. 「戦略管理と現代管理会計」『企業会計』55(9)：1236-1243.
- * 松原恭司郎. 2003. 「日本企業における BSC 導入の概況」『企業会計』55(5)：678-683.
- * 彌園豊一. 2003. 「関西電力における経営管理システム改革と BSC」『企業会計』55(5)：690-695.

2004 年

- * 浅田孝幸. 2004. 「組織変革のための管理会計」『企業会計』56(7)：946-953.
- * 今福愛志. 2004. 「CSR 会計のフレームワークの再構成－CSR リスクマネジメントと会計－」『企業会計』56(9)：1242-1249.
- * 鈴木研一. 2004. 「プロジェクト管理会計システムの枠組み」『企業会計』56(7)：954-960.
- * 谷武幸. 2004. 「自治体におけるバランスト・スコアカードの導入」『企業会計』56(10)：1372-1378.
- * 秦久朗. 2004. 「バランスト・スコアカードによる間接部門経営」『企業会計』56(9)：1348-1355.
- * 林攝子. 2004. 「戦略コミュニケーションツールとしてのバランスト・スコアカード－戦略共有効果に関する実証分析－」『企業会計』56(4)：610-615.
- * 藤野雅史・挽文子. 2004. 「キリンビールにおけるカンパニー制のもとでの EVA と BSC」『企業会計』56(5)：681-688.
- * 松本有二. 2004. 「米国シャーロット市のプロジェクト管理会計」『企業会計』56(7)：985-992.

2006 年

- * 伊藤和憲. 2006. 「戦略マップと BSC の導入事例－相模原協同病院への導入－」『企業会計』58(10)：1628-1636.
- 伊藤克容. 2006. 「管理会計による組織文化マネジメントの可能性」『企業会計』58(11)：1791-1797.
- 櫻井通晴. 2006. 「管理会計における無形の資産のマネジメント」『企業会計』58(8)：1222-1230.
- * 望月恒男. 2006. 「知的資産経営における BSC の活用」『企業会計』58(8)：1231-1239.

2007 年

- * 河合隆治・乙政佐吉. 2007. 「バランスト・スコアカードによる業績連動型報酬制度の運用」『企業会計』59(4)：588-593.
- 清水孝. 2007. 「日本企業における事業の業績管理に関する調査（上）」『企業会計』59(8)：1146-1154.

- *長谷川和弘. 2007. 「BSC とシェアードサービス」『企業会計』 59(3) : 363-372.

2009 年

- *中嶋教夫. 2009. 「明星大学におけるバランスト・スコアカード (BSC) への取組み」『企業会計』 61(6) : 929-935.
- *前田貞芳. 2009. 「国際化・情報化時代における管理会計研究の方法と課題－会計の社会的視点からの統合的展開に向けて－」『企業会計』 61(11) : 1608-1615.
- *山下千丈. 2009. 「戦略的ヒューマンリソース・マネジメントと管理会計」『企業会計』 61(11) : 1737-1742.
- 吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好. 2009. 「日本企業における管理会計〈3〉－製造業の実態調査－」『企業会計』 61(11) : 1730-1736.

2010 年

- 吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好. 2010. 「日本企業における管理会計〔第2部〕(2・終)－非製造業の実態調査と製造業との比較－」『企業会計』 62(5) : 772-780.

欧米文献 (学術雑誌)

Accounting, Organizations and Society

1997 年

- Langfield-Smith, K. 1997. Management Control Systems and Strategy : A Critical View. *Accounting, Organizations and Society* 22 : 207-232.

1998 年

- Chenhall, R. H. and K. Langfield-Smith 1998. The Relationship between Strategic Priorities, Management Techniques and Management Accounting : An Empirical Investigation Using Systems Approach. *Accounting, Organizations and Society* 23 : 243-264.
- Lukka, K. 1998. Total Accounting in Action : Reflections on Sten Jönsson's Accounting for Improvement. *Accounting, Organizations and Society* 23 : 333-342.

1999 年

- Anderson, S. W. and W. N. Lanen 1999. Economic Transition, Strategy and the Evolution of Management Accounting Practices : The Case of India. *Accounting, Organizations and Society* 24 : 379-412.
- Kalagannam, S. S. and R. M. Lindsay 1999. The Use of Organic Models of Controls in JIT Firms : Generalising Woodward's Findings to Modern Manufacturing Practices. *Accounting, Organizations and Society* 24 : 1-30.
- Scott, T. W. and P. Tiessen 1999. Performance Measurement and Managerial Teams. *Accounting, Organizations and Society* 24 : 263-285.
- Vaivio, J. 1999. Examining "The Quantified Customer". *Accounting, Organizations and Society* 24 : 689-715.

2000 年

- Davila, T. 2000. An Empirical Study on the Drivers of Management Control Systems' Design in New Product Development. *Accounting, Organizations and Society*. 25 : 383-409.
- Hartmann, F. G. H. 2000. The Appropriateness of RAPM : Toward the Further Development of Theory. *Accounting, Organizations and Society* 25 : 451-482.
- Otley, D. and A. Fakiolas. 2000. Reliance on Accounting Performance Measures : Dead End or New Beginning. *Accounting, Organizations and Society* 25 : 497-510.

Otley, D. and Pollanen. 2000. Budgetary Criteria in Performance Evaluation, A Critical Appraisal Using New Evidence. *Accounting, Organizations and Society* 25 : 483–496.

2001 年

Gröger, J-E. 2001. Intangibles and Accounting Classifications : In Search of a Classification Strategy. *Accounting, Organizations and Society* 26 : 695–713.

Johanson, U., M. Mårtensson and M. Skoog. 2001. Mobilizing Change through the Management Control of Intangibles. *Accounting, Organizations and Society* 26 : 715–733.

2002 年

Fullerton, R. R. and C. S. McWatters. 2002. The Role of Performance Measures and Incentive Systems in Relation to the Degree of JIT Implementation. *Accounting, Organizations and Society*. 27 : 711–735.

Guilding, C. and L. McManus. 2002. The Incidence, Perceived Merit and Antecedents of Customer Accounting : An Exploratory Note. *Accounting, Organizations and Society* 27 : 45–59.

Jones, T. C. and D. Dugdale. 2002. The ABC Bandwagon and the Juggernaut of Modernity. *Accounting, Organizations and Society* 27 : 121–163.

Lillis, A. M. 2002. Managing Multiple Dimensions of Manufacturing Performance : An Exploratory Study. *Accounting, Organizations and Society* 27 : 497–529.

*Lipe, M. G. and S. Salterio. 2002. A Note on the Judgmental Effects of the Balanced Scorecard's Organization. *Accounting, Organizations and Society* 27 : 531–540.

2003 年

*Ittner, C. D., D. F. Larcker and T. Randall. 2003. Performance Implications of Strategic Performance Measurement in Financial Services Firms. *Accounting, Organizations and Society* 28 : 715–741.

*Nørreklit, H. 2003. The Balanced Scorecard : What is the Score? : A Rhetorical Analysis of the Balanced Scorecard. *Accounting, Organizations and Society* 28 : 591–619.

2004 年

Bisbe, J. and D. Otley. 2004. The Effects of the Interactive Use of Management Control Systems on Product Innovation. *Accounting, Organizations and Society* 29 : 709–737.

2005 年

Chenhall, R. H. 2005. Integrative Strategic Performance Measurement Systems, Strategic Alignment of Manufacturing, Learning and Strategic Outcomes : An Exploratory Study. *Accounting, Organizations and Society* 30 : 395–422.

*Moers, F. 2005. Discretion and Bias in Performance Evaluation : The Impact of Diversity and Subjectivity. *Accounting, Organizations and Society* 30 : 67–80.

2006 年

Henri, J.-F. 2006 a. Organizational Culture and Performance Measurement Systems. *Accounting, Organizations and Society* 31 : 77–103.

*Henri, J.-F. 2006 b. Management Control Systems and Strategy : A resource-based Perspective. *Accounting, Organizations and Society* 31 : 529–558.

Pizzini, M. J. 2006. The Relation between Cost-system Design, Managers' Evaluations of the Relevance and Usefulness of Cost Data, and Financial performance : An Empirical Study of US Hospitals. *Accounting, Organizations and Society* 31 : 179–210.

Vaivio, J. 2006. The Accounting of "The Meeting" : Examining Calculability within a "Fluid" Local Space.

Accounting, Organizations and Society 31 : 735–762.

2007 年

Ahrens, T. and C. S. Chapman. 2007. Management Accounting as Practice. *Accounting, Organizations and Society* 32 : 1–27.

Bisbe, J., J.-M. Batista-Foguet and R. Chenhall. 2007. Defining Management Accounting Constructs : A Methodological Note on the Risks of Conceptual Misspecification. *Accounting, Organizations and Society* 32 : 789–820.

Chenhall, R. H. and K. J. Euske. 2007. The Role of Management Control Systems in Planned Organizational Change : An Analysis of Two Organizations. *Accounting, Organizations and Society* 32 : 601–637.

Widener, S. K. 2007. An Empirical Analysis of the Levers of Control Framework. *Accounting, Organizations and Society* 32 : 757–788.

* Wong-on-Wing, B., L. Guo, W. Li and D. Yang. 2007. Reducing Conflict in Balanced Scorecard Evaluations. *Accounting, Organizations and Society* 32 : 363–377.

2008 年

Cadez, S. and C. Guilding. 2008. An Exploratory Investigation of an Integrated Contingency Model of Strategic Management Accounting. *Accounting, Organizations and Society* 33 : 836–863.

Hall, M. 2008. The Effect of Comprehensive Performance Measurement Systems on Role Clarity, Psychological Empowerment and Managerial Performance. *Accounting, Organizations and Society* 33 : 141–167.

Wiersma, E. 2008. An Exploratory Study of Relative and Incremental Information Content of Two Non-financial Performance Measures : Field Study Evidence on Absence Frequency and on-time Delivery. *Accounting, Organizations and Society* 33 : 249–265.

2009 年

Burney, L. L., C. A. Henle and S. K. Widener. 2009. A Path Model Examining the Relations among Strategic Performance Measurement System Characteristics, Organizational Justice, and extra- and in-role Performance. *Accounting, Organizations and Society* 34 : 305–321.

Roberts, J. 2009. No One is Perfect : The Limits of Transparency and an Ethic for ‘Intelligent’ Accountability. *Accounting, Organizations and Society* 34 : 957–970.

2010 年

Bol, J. C. and F. Moers. 2010. The Dynamics of Incentive Contracting : The Role of Learning in the Diffusion Process. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 721–736.

* Grafton, J., A. M. Lillis and S. K. Widener. 2010. The Role of Performance Measurement and Evaluation in Building Organizational Capabilities and Performance. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 689–706.

Hall, M. 2010. Accounting Information and Managerial Work. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 301–315.

Henri, J.-F. and M. Journeault. 2010 : Eco-control : The Influence of Management Control Systems on Environmental and Economic Performance. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 63–80.

* Knechel, W. R., S. E. Salterio and N. Kochetova-Kozloski. 2010. The Effect of Benchmarked Performance Measures and Strategic Analysis on Auditors’ Risk Assessments and Mental Models. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 316–333.

* van Veen-Dirks, P. 2010. Different Uses of Performance Measures : The Evaluation versus Reward of Production Managers. *Accounting, Organizations and Society* 35 : 141–164.

* Cardinaels, E. and P. M. G. van Veen-Dirks. 2010. Financial versus Non-financial Information : The Impact of Information Organization and Presentation in a Balanced Scorecard. *Accounting, Organizations and Society* 35 :

565–578.

Behavioral Research in Accounting

1998 年

Fisher, J. G. 1998. Contingency Theory, Management Control Systems and Firm Outcomes : Past Results and Future Directions. *Behavioral Research in Accounting* 10 (Supplement) : 47–64.

2004 年

*Roberts, M. L., T. L. Albright and A. R. Hibbets. 2004. Debiasing Balanced Scorecard Evaluations. *Behavioral Research in Accounting* 16 : 75–88.

*Ullrich, M. J. and B. M. Tuttle. 2004. The Effects of Comprehensive Information Reporting Systems and Economic Incentives on Managers' Time-Planning Decisions. *Behavioral Research in Accounting* 16 : 89–105.

2005 年

*Dilla, W. N. and P. J. Steinbart. 2005. Relative Weighting of Common and Unique Balanced Scorecard Measures by Knowledgeable Decision Makers. *Behavioral Research in Accounting* 17 : 43–53.

Ghosh, D. 2005. Alternative Measures of Managers Performance, Controllability, and the Outcome Effect. *Behavioral Research in Accounting* 17 : 55–70.

Maiga, A. S. and F. A. Jacobs. 2005. Antecedents and Consequences of Quality Performance. *Behavioral Research in Accounting* 17 : 111–131.

2006 年

van der Stede, W. A., C. W. Chow and T. W. Lin. 2006. Strategy, Choice of Performance Measures, and Performance. *Behavioral Research in Accounting* 18 : 185–205.

2007 年

Burney, L. and S. K. Widener. 2007. Strategic Performance Measurement Systems, Job-Relevant Information, and Managerial Behavioral Responses : Role Stress and Performance. *Behavioral Research in Accounting* 19 : 43–69.

Drake, A. R., J. Wong and S. B. Salter. 2007. Empowerment, Motivation, and Performance : Examining the Impact of Feedback and Incentives on Nonmanagement Employees. *Behavioral Research in Accounting* 19 : 71–89.

Heitger, D. L. 2007. Estimating Activity Costs : How the Provision of Accurate Historical Activity Data from a Biased Cost System Can Improve Individuals' Cost Estimation Accuracy. *Behavioral Research in Accounting* 19 : 133–159.

2008 年

Chen, S. 2008. DCF Techniques and Nonfinancial Measures in Capital Budgeting : A Contingency Approach Analysis. *Behavioral Research in Accounting* 20 : 13–29.

*Lau, C. M. and A. Moser 2008. Behavioral Effects of Nonfinancial Performance Measures : The Role of Procedural Fairness. *Behavioral Research in Accounting* 20 : 55–71.

*Liedtka, S. L., B. K. Church and M. R. Ray. 2008. Performance Variability, Ambiguity Intolerance, and Balanced Scorecard : Based Performance Assessments. *Behavioral Research in Accounting* 20 : 73–88.

2009 年

*Kaplan, S. E. and P. S. Wisner. 2009. The Judgmental Effects of Management Communications and a Fifth Balanced Scorecard Category on Performance Evaluation. *Behavioral Research in Accounting* 21(2) : 37–56.

Libby, T. and L. Thorne. 2009. The Influence of Incentive Structure on Group Performance in Assembly Lines and

Teams. *Behavioral Research in Accounting* 21(2) : 57–72.

Contemporary Accounting Research

2004 年

Webb, R. A. 2004. Managers' Commitment to the Goals Contained in a Strategic Performance Measurement System. *Contemporary Accounting Research* 21(4) : 925–958.

2005 年

Callen, J. L., M. Morel and C. Fader. 2005. Productivity Measurement and the Relationship between Plant Performance and JIT Intensity. *Contemporary Accounting Research* 22(2) : 271–309.

2007 年

Banker, R. D. and R. Mashruwara. 2007. The Moderating Role of Competition in the Relationship between Nonfinancial Measures and Future Financial Performance. *Contemporary Accounting Research* 24(3) : 763–793.

Kelly, K. O. 2007. Feedback and Incentives on Nonfinancial Value Drivers : Effects on Managerial Decision Making. *Contemporary Accounting Research* 24(2) : 523–556.

*Malina, M. A., H. O. Nørreklit and F. H. Selto. 2007. Relations among Measures, Climate of Control, and Performance Measurement Models. *Contemporary Accounting Research* 24(3) : 935–982.

Petersen, M. J. 2007. Using Downstream Revenue in a Performance Measurement System. *Contemporary Accounting Research* 24(4) : 1193–1215.

2008 年

Farrell, A. M., K. Kadous and K. L. Towry. 2008. Contracting on Contemporaneous versus Forward-Looking Measures : An Experimental Investigation. *Contemporary Accounting Research* 25(3) : 773–802.

2010 年

Kelly, K. 2010. Accuracy of Relative Weights on Multiple Leading Performance Measures : Effects on Managerial Performance and Knowledge. *Contemporary Accounting Research* 27(2) : 577–608.

Journal of Accounting and Economics

1994 年

Wruck, K. H. and M. C. Jensen. 1994. Science, Specific Knowledge, and Total Quality Management. *Journal of Accounting and Economics* 18 : 247–287.

1997 年

Dopuch, N. and M. Gupta. 1997. Estimation of Benchmark Performance Standards : An Application to Public School Expenditures. *Journal of Accounting and Economics* 23 : 141–161.

Keating, A. S. 1997. Determinants of Divisional Performance Evaluation Practices. *Journal of Accounting and Economics* 24 : 243–273.

1998 年

Narayanan, V. G. and A. Davila. 1998. Using Delegation and Control Systems to Mitigate the Trade-off between the Performance-Evaluation and Belief-Revision Uses of Accounting Signals. *Journal of Accounting and Economics* 25 : 255–282.

2001 年

Ittner, C. D. and D. F. Larcker. 2001. Assessing Empirical Research in Managerial Accounting : A Value-Based Management Perspective. *Journal of Accounting and Economics* 32 : 349–410.

Murphy, K. J. 2001. Performance Standards in Incentive Contracts. *Journal of Accounting and Economics* 30 : 245–278.

Lambert, R. A. 2001. Contracting Theory and Accounting. *Journal of Accounting and Economics* 32 : 3–87.

Journal of Accounting Literature

2001 年

Nyamori, R. O., M. H. B. Perera and S. R. Lawrence. 2001. The Concept of Strategic Change and Implications for Management Accounting Research. *Journal of Accounting Literature* 20 : 62–83.

2005 年

Ashton, R. H. 2005. Intellectual Capital and Value Creation : A Review. *Journal of Accounting Literature* 24 : 53–134.

2008 年

Bol, J. C. 2008. Subjectivity in Compensation Contracting. *Journal of Accounting Literature* 27 : 1–24.

2009 年

Tucker, B., H. Thorne and B. Gurd. 2009. Management Control Systems and Strategy : What's been Happening?. *Journal of Accounting Literature* 28 : 123–163.

Journal of Accounting Research

1998 年

Ittner, C. D. and D. F. Larcker. 1998. Are Nonfinancial Measures Leading Indicators of Financial Performance? : An Analysis of Customer Satisfaction. *Journal of Accounting Research* 36 (Supplement) : 1–35.

2001 年

Dater, S., S. C. Kulp and R. A. Lambert. 2001. Balancing Performance Measures. *Journal of Accounting Research* 39 (1) : 75–92.

2003 年

Dutta, S. and S. Reichelstein. 2003. Leading Indicator Variables, Performance Measurement, and Long-Term Versus Short-Term Contracts. *Journal of Accounting Research* 41(5) : 837–866.

2007 年

*Budde, J. 2007. Performance Measure Congruity and the Balanced Scorecard. *Journal of Accounting Research* 45 (3) : 515–539.

2008 年

*Campbell, D. 2008. Nonfinancial Performance Measures and Promotion-Based Incentives. *Journal of Accounting Research* 46(2) : 297–332.

Kachelmeier, S. J., B. E. Reichert and M. G. Williamson. 2008. Measuring and Motivating Quantity, Creativity, or Both. *Journal of Accounting Research* 46(2) : 341–373.

2009 年

- Brazel, J. F., K. L. Jones and M. L. Zimbelman. 2009. Using Nonfinancial Measures to Assess Fraud Risk. *Journal of Accounting Research* 47(5) : 1135–1166.

Journal of Management Accounting Research

1996 年

- Eltnathan, D. and T. W. Lin. 1996. Benchmarking and Management Accounting : A Framework for Research. *Journal of Management Accounting Research* 8 : 37–54.
- Foster, G. and L. Sjoblom. 1996. Quality Improvement Drivers in the Electronics Industry. *Journal of Management Accounting Research* 8 : 56–86.

1997 年

- Atkinson, A. A., R. Balakrishnan, P. Booth, J. M. Cote, T. Groot, T. Malmi, H. Roberts, E. Uliana and A. Wu. 1997. New Directions in Management Accounting Research. *Journal of Management Accounting Research* 9 : 79–108.
- Shields, M. D. 1997. Research in Management Accounting by North Americans in the 1990s. *Journal of Management Accounting Research* 9 : 3–61.

1998 年

- Granlund, M. and K. Lukka. 1998. It's a Small World of Management Accounting Practices. *Journal of Management Accounting Research* 10 : 154–179.
- Ittner, C. D. and D. F. Larcker. 1998. Innovations in Performance Measurement : Trends and Research Implications. *Journal of Management Accounting Research* 10 : 206–238.
- Kaplan, R. S. 1998. Innovation Action Research : Creating New Management Theory and Practice. *Journal of Management Accounting Research* 10 : 90–118.

1999 年

- Briers, M. L., C. W. Chow, N.-C. R. Hwang and P. F. Lockett. 1999. The Effects of Alternative Types of Feedback on Product-Related Decision Performance : A Research Note. *Journal of Management Accounting Research* 11 : 76–92.
- Lanen, W. L. 1999. Waste Minimization at 3 M Company : A Field Study in Nonfinancial Performance Measurement. *Journal of Management Accounting Research* 11 : 30–43.
- Widener, S. K. and F. H. Selto. 1999. Management Control Systems and Boundaries of the Firm : Why Do Firms Outsource Internal Auditing Activities?. *Journal of Management Accounting Research* 11 : 45–73.

2000 年

- *Hoque, Z. and W. James. 2000. Linking Balanced Scorecard Measures to Size and Market Factors : Impact on Organizational Performance. *Journal of Management Accounting Research* 12 : 1–17.

2001 年

- Abernethy, M. A. and A. M. Lillis. 2001. Interdependencies in Organization Design : A Test in Hospitals. *Journal of Management Accounting Research* 13 : 107–129.
- Kennedy, T. and J. Affleck-Graves. 2001. The Impact of Activity-Based Costing Techniques on Firm Performance. *Journal of Management Accounting Research* 13 : 19–45.
- *Malina, M. A. and F. H. Selto. 2001. Communicating and Controlling Strategy : An Empirical Study of the Effectiveness of the Balanced Scorecard. *Journal of Management Accounting Research* 13 : 47–90.

2002 年

- *Smith, M. J. 2002. Gaming Nonfinancial Performance Measures. *Journal of Management Accounting Research* 14 : 119–133.

2003 年

- Hansen, S. C., D. T. Otley and W. A. van der Stede. 2003. Practice Developments in Budgeting : An Overview and Research Perspective. *Journal of Management Accounting Research* 15 : 95–116.
- Said, A. A., H. R. HassabElnaby and B. Wier. 2003. An Empirical Investigation of the Performance Consequences of Nonfinancial Measures. *Journal of Management Accounting Research* 15 : 193–223.

2004 年

- *Bryant, L., D. A. Jones and S. K. Widener. 2004. Managing Value Creation within the Firm : An Examination of Multiple Performance Measures. *Journal of Management Accounting Research* 16 : 107–131.
- Horngren, C. T. 2004. Management Accounting : Some Comments. *Journal of Management Accounting Research* 16 : 207–211.
- *Smith, R. E. and W. F. Wright. 2004. Determinants of Customer Loyalty and Financial Performance. *Journal of Management Accounting Research* 16 : 183–205.

2006 年

- Kaplan, R. S. 2006. The Competitive Advantage of Management Accounting. *Journal of Management Accounting Research* 18 : 127–135.
- Naranjo-Gil, D. and F. Hartmann. 2006. How Top Management Teams Use Management Accounting Systems to Implement Strategy. *Journal of Management Accounting Research* 18 : 21–53.

2007 年

- Dikolli, S. S. and K. L. Sedatole. 2007. Improvements in the Information Content of Nonfinancial Forward-Looking Performance Measures : A Taxonomy and Empirical Application. *Journal of Management Accounting Research* 19 : 71–104.

2008 年

- *Demski, J. S., J. C. Fellingham and H. H. Lin. 2008. Useful Additional Evaluation Measures. *Journal of Management Accounting Research* 20 : 165–173.
- Duh, R.-R., J. Z. Xiao and C. W. Chow. 2008. An Overview and Assessment of Contemporary Management Accounting Research in China. *Journal of Management Accounting Research* 20 : 129–164.
- Hopwood, A. G. 2008. Management Accounting Research in a Changing World. *Journal of Management Accounting Research* 20 : 3–13.
- Lillis, A. M. and P. M. G. van Veen-Dirks. 2008. Performance Measurement System Design in Joint Strategy Settings. *Journal of Management Accounting Research* 20 : 25–57.

2009 年

- *Dikolli, S. S., C. Hofmann and S. L. Kulp. 2009. Interrelated Performance Measures, Interactive Effort, and Incentive Weights. *Journal of Management Accounting Research* 21 : 125–149.
- Jørgensen, B. and M. Messner. 2009. Management Control in New Product Development : The Dynamics of Managing Flexibility and Efficiency. *Journal of Management Accounting Research* 21 : 99–124.

2010 年

- *Aranda, C. and J. Arellano. 2010. Consensus and Link Structure in Strategic Performance Measurement Systems : A Field Study. *Journal of Management Accounting Research* 22 : 271–299.
- Autrey, R. L., S. S. Dikolli and D. P. Newman. 2010. Performance Measure Aggregation, Career Incentives, and Explicit Incentives. *Journal of Management Accounting Research* 22 : 115–131.
- Evans III, J. H., K. Kim, N. J. Nagarajan and S. Patro. 2010. Nonfinancial Performance Measures and Physician Compensation. *Journal of Management Accounting Research* 22 : 31–56.

Management Accounting Research

1994 年

- Otley, D. 1994. Management Control in Contemporary Organizations : Toward a Wider Framework. *Management Accounting Research* 5 : 289–299.

1996 年

- Moon, P. and L. Fitzgerald. 1996. Delivering the Goods at TNT : The Role of the Performance Measurement System. *Management Accounting Research* 7 : 431–457.

1997 年

- Brignall, S. 1997. A Contingent Rationale for Cost System Design in Services. *Management Accounting Research* 8 : 325–346.
- Carr, S., Y. T. Mak and J. E. Needham. 1997. Differences in Strategy, Quality Management Practices and Performance Reporting Systems between ISO Accredited and non-ISO Accredited Companies. *Management Accounting Research* 8 : 383–403.
- Chenhall, R. H. 1997. Reliance on Manufacturing Performance Measures, Total Quality Management and Organizational Performance. *Management Accounting Research* 8 : 187–206.
- Kloot, L. 1997. Organizational Learning and Management Control Systems : Responding to Environmental Change. *Management Accounting Research* 8 : 47–73.
- Malmi, T. 1997. Towards Explaining Activity-based Costing Failure : Accounting and Control in a Decentralized Organization. *Management Accounting Research* 8 : 459–480.
- Rangone, A. 1997. Linking Organizational Effectiveness, Key Success Factors and Performance Measures : An Analytical Framework. *Management Accounting Research* 8 : 207–219.

1998 年

- Ballantine, J., S. Brignall and S. Modell. 1998. Performance Measurement and Management in Public Health Services : A Comparison of U.K. and Swedish Practice. *Management Accounting Research* 9 : 71–94.
- Granlund, M. and K. Lukka. 1998. Towards Increasing Business Orientation : Finnish Management Accountants in a Changing Cultural Context. *Management Accounting Research* 9 : 185–211.
- Nixon, B. 1998. Research and Development Performance Measurement : A Case Study. *Management Accounting Research* 9 : 329–355.
- O’hanlon, J. and K. Peasnell. 1998. Wall Street’s Contribution to Management Accounting : The Stern Stewart EVA® Financial Management System. *Management Accounting Research* 9 : 421–444.

1999 年

- Björnenak, T. and O. Olson. 1999. Unbundling Management Accounting Innovations. *Management Accounting Research* 10 : 325–338.
- de Haas, M. and A. Kleingeld. 1999. Multilevel Design of Performance Measurement Systems : Enhancing Strategic

- Dialogue throughout the Organization. *Management Accounting Research* 10 : 233–261.
- Jazayeri, M. and T. Hopper. 1999. Management Accounting within World Class Manufacturing : A Case Study. *Management Accounting Research* 10 : 263–301.
- * Otle, D. 1999. Performance Management : A Framework for Management Control Systems Research. *Management Accounting Research* 10 : 363–382.
- Seal, W., J. Cullen, A. Dunlop, T. Berry and M. Ahmed. 1999. Enacting a European Supply Chain : A Case Study on the Role of Management Accounting. *Management Accounting Research*. 10 : 303–322.
- Vaivio, J. 1999. Exploring a ‘non-financial’ Management Accounting Change. *Management Accounting Research*. 10 : 409–437.
- Wouters, M., K. Kokke, J. Theeuwes and K. van Donselaar. 1999. Identification of Critical Operational Performance Measures : A Research Note on a Benchmarking Study in the Transportation and Distribution Sector. *Management Accounting Research* 10 : 439–452.

2000 年

- Brignall S. and S. Modell. 2000. An Institutional Perspective on Performance Measurement and Management in the ‘New Public Sector’. *Management Accounting Research* 11 : 281–306.
- Hyndman N. and R. Eden. 2000. A Study of the Coordination of Mission, Objectives and Targets in U.K. Executive Agencies. *Management Accounting Research* 11 : 175–191.
- * Kloot L. and J. Martin. 2000. Strategic Performance Management : A Balanced Approach to Performance Management Issues in Local Government. *Management Accounting Research* 11 : 131–251.
- Nilsson, F. 2000. Parenting Styles and Value Creation : A Management Control Approach. *Management Accounting Research* 11 : 89–112.
- * Nørreklit, H. 2000. The Balance on the Balanced Scorecard : A Critical Analysis of Some of its Assumptions. *Management Accounting Research* 11 : 65–88.

2001 年

- Burns, J. and J. Vaivio. 2001. Management Accounting Change. *Management Accounting Research* 12 : 389–402.
- Malmi, T. 2001. Balanced Scorecards in Finnish Companies : A Research Note. *Management Accounting Research* 12 : 207–220.

2002 年

- * Kasurinen, T. 2002. Exploring Management Accounting Change : The Case of Balanced Scorecard Implementation. *Management Accounting Research* 13 : 323–343.
- * Rouse, P., M. Putterill and D. Ryan. 2002. Integrated Performance Measurement Design : Insights from an Application in Aircraft Maintenance. *Management Accounting Research* 13 : 229–248.

2003 年

- Malmi, T. and S. Ikäheimo. 2003. Value Based Management Practices : Some Evidence from the Field. *Management Accounting Research* 14 : 235–254.
- Modell, S. 2003. Goals versus Institutions : The Development of Performance Measurement in the Swedish University Sector. *Management Accounting Research* 14 : 333–359.
- Roslender, R. and S. J. Hart. 2003. In Search of Strategic Management Accounting : Theoretical and Field Study Perspectives. *Management Accounting Research* 14 : 255–279.
- * Speckbacher, G., J. Bischof and T. Pfeiffer. 2003. A Descriptive Analysis on the Implementation of Balanced Scorecards in German-speaking Countries. *Management Accounting Research* 14 : 361–387.
- Surysekar, K. 2003. A note on the Interaction Effects of non-financial Measures of Performance. *Management*

Accounting Research 14 : 409–417.

ter Bogt, H. J. 2003. Performance Evaluation Styles in Governmental Organizations : How Do Professional Managers Facilitate Politicians' Work?. *Management Accounting Research* 14 : 311–332.

2004 年

* Bourguignon, A., V. Malleret and H. Nørreklit. 2004. The American Balanced Scorecard versus the French Tableau de bord : The Ideological Dimension. *Management Accounting Research* 15 : 107–134.

Brignall S. and J. Ballantine. 2004. Strategic Enterprise Management Systems : New Directions for Research. *Management Accounting Research* 15 : 225–240.

* Davis, S. and T. Albright. 2004. An Investigation of the Effect of Balanced Scorecard Implementation on Financial Performance. *Management Accounting Research* 15 : 135–153.

Jermias, J. and L. Gani. 2004. Integrating Business Strategy, Organizational Configurations and Management Accounting Systems with Business Unit Effectiveness : A Fitness Landscape Approach. *Management Accounting Research* 15 : 179–200.

Leitner, K.-H. and C. Warden. 2004. Managing and Reporting Knowledge-based Resources and Processes in Research Organisations : Specifics, Lessons Learned and Perspectives. *Management Accounting Research* 15 : 33–51.

* Malina, M. A. and F. H. Selto. 2004. Choice and Change of Measures in Performance Measurement Models. *Management Accounting Research* 15 : 441–469.

McNamara, C., J. Baxter and W. F. Chua. 2004. Making and Managing Organisational Knowledge(s). *Management Accounting Research* 15 : 53–76.

Ratnatunga, J., N. Gray and K. R. Balachandran. 2004. CEVITA™ : The Valuation and Reporting of Strategic Capabilities. *Management Accounting Research* 15 : 77–105.

2005 年

Abernethy, M. A., M. Horne, A. M. Lillis, M. A. Malina and F. H. Selto. 2005. A Multi-method Approach to Building Causal Performance Maps from Expert Knowledge. *Management Accounting Research* 16 : 135–155.

* Ax, C. and T. Bjørnenak. 2005. Bundling and Diffusion of Management Accounting Innovations : The Case of the Balanced Scorecard in Sweden. *Management Accounting Research* 16 : 1–20.

Collier, P. H. 2005. Entrepreneurial Control and the Construction of a Relevant Accounting. *Management Accounting Research* 16 : 321–339.

Frow, N., D. Marginson and S. Ogden. 2005. Encouraging Strategic Behaviour while Maintaining Management Control : Multi-functional Project Teams, Budgets, and the Negotiation of Shared Accountabilities in Contemporary Enterprises. *Management Accounting Research* 16 : 269–292.

Mouritsen, J. and H. T. Lasen. 2005. The 2nd Wave of Knowledge Management : The Management Control of Knowledge Resources through Intellectual Capital Information. *Management Accounting Research* 16 : 371–394.

Sulaiman, S. and F. Mitchell. 2005. Utilising a Typology of Management Accounting Change : An Empirical Analysis. *Management Accounting Research* 16 : 422–437.

Tillema, S. 2005. Towards an Integrated Contingency Framework for MAS Sophistication : Case Studies on the Scope of Accounting Instruments in Dutch Power and Gas Companies. *Management Accounting Research* 16 : 101–129.

* Tuomela, T.-S. 2005. The Interplay of Different Levers of Control : A Case Study of Introducing a New Performance Measurement System. *Management Accounting Research* 16 : 293–320.

Mahama, H. 2006. Management Control Systems, Cooperation and Performance in Strategic Supply Relationships : A Survey in the Mines. *Management Accounting Research* 17 : 315–339.

Seal, W. 2006. Management Accounting and Corporate Governance : An Institutional Interpretation of the Agency Problem. *Management Accounting Research* 17 : 389–408.

Widener, S. K. 2006a. Human Capital, Pay Structure, and the Use of Performance Measures in Bonus Compensation. *Management Accounting Research* 17 : 198–221.

Widener, S. K. 2006b. Associations between Strategic Resource Importance and Performance Measure Use : The Impact on Firm Performance. *Management Accounting Research* 17 : 433–457.

2007 年

Bhimani, A. and K. Langfield-Smith. 2007. Structure, Formality and the Importance of Financial and non-financial Information in Strategy Development and Implementation. *Management Accounting Research* 18 : 3–31.

Brown, R. and S. Brignall. 2007. Reflections on the Use of a Dual-methodology Research Design to Evaluate Accounting and Management Practice in UK University Central Administrative Services. *Management Accounting Research* 18 : 32–48.

*Busco, C., P. Quattrone and A. Riccaboni. 2007. Management Accounting Issues in Interpreting its Nature and Change. *Management Accounting Research* 18 : 125–149.

Hyvönen, J. 2007. Strategy, Performance Measurement Techniques and Information Technology of the Firm and their Links to Organizational Performance. *Management Accounting Research* 18 : 343–366.

Lukka, K. 2007. Management Accounting Change and Stability : Loosely Coupled Rules and Routines in Action. *Management Accounting Research* 18 : 76–101.

Thrane, S. 2007. The Complexity of Management Accounting Change : Bifurcation and Oscillation in Schizophrenic Inter-organisational Systems. *Management Accounting Research* 18 : 248–272.

2008 年

Cäker, M. 2008. Intertwined Coordination Mechanisms in Interorganizational Relationships with Dominated Suppliers. *Management Accounting Research* 19 : 231–251.

Dossi, A. and L. Patelli. 2008. The Decision-influencing Use of Performance Measurement Systems in Relationships between Headquarters and Subsidiaries. *Management Accounting Research* 19 : 126–148.

Malmi, T. and D.A. Brown. 2008. Management Control Systems as a Package : Opportunities, Challenges and Research Directions. *Management Accounting Research* 19 : 287–300.

Tillmann, K. and A. Goddard. 2008. Strategic Management Accounting and Sense-making in a Multinational Company. *Management Accounting Research* 19 : 80–102.

2009 年

Batac, J. and D. Carassus. 2009. Interactions between Control and Organizational Learning in the case of a Municipality : A comparative Study with Kloot (1997). *Management Accounting Research* 20 : 102–116.

Broadbent, J. and R. Laughlin. 2009. Performance Management Systems : A Conceptual Model. *Management Accounting Research* 20 : 283–295.

Coad, A. F. and I. P. Herbert. 2009. Back to the Future : New Potential for Structuration Theory in Management Accounting Research?. *Management Accounting Research* 20 : 177–192.

Ferreira, A. and D. Otley. 2009. The Design and Use of Performance Management Systems : An Extended Framework for Analysis. *Management Accounting Research* 20 : 263–282.

*Li, P. and G. Tang. 2009. Performance Measurement Design within its Organisational Context : Evidence from China. *Management Accounting Research* 20 : 193–207.

Mikes, A. 2009. Risk Management and Calculative Cultures. *Management Accounting Research* 20 : 18–40.

*Wiersma, E. 2009. For Which Purposes Do Managers Use Balanced Scorecards? : An Empirical Study. *Management Accounting Research* 20 : 239–251.

2010 年

- Carr, C., K. Kolehmainen and F. Mitchell. 2010. Strategic Investment Decision Making Practices : A Contextual Approach. *Management Accounting Research* 21 : 167-184.
- Hansen, A. 2010. Nonfinancial Performance Measures, Externalities and Target Setting : A Comparative Case Study of Resolutions through Planning. *Management Accounting Research* 21 : 17-39.
- *Kraus, K. and J. Lind. 2010. The Impact of the Corporate Balanced Scorecard on Corporate Control : A Research Note. *Management Accounting Research* 21 : 265-277.
- Libby, T. and R. M. Lindsay. 2010. Beyond Budgeting or Budgeting Reconsidered? A Survey of North-American Budgeting Practice. *Management Accounting Research* 21 : 56-75.

Review of Accounting Studies

2000 年

- Feltham, G. A. and M. G. H. Wu. 2000. Public Reports, Information Acquisition by Investors, and Management Incentives. *Review of Accounting Studies* 5 : 155-190.

2009 年

- Corona, C. 2009. Dynamic Performance Measurement with Intangible Assets. *Review of Accounting Studies* 14 : 314-348.

The Accounting Review

1996 年

- Balakrishnan, R., T. J. Linsmeier and M. Venkatachalam. 1996. Financial Benefits from JIT Adoption : Effects of Customer Concentration and Cost Structure. *The Accounting Review* 71(2) : 183-205.

1997 年

- Ittner, C. D., D. F. Larcker and M. V. Rajan. 1997. The Choice of Performance Measures in Annual Bonus Contracts. *The Accounting Review* 72(2) : 231-255.

2000 年

- Banker, R. D., G. Potter and D. Srinivasan. 2000. An Empirical Investigation of an Incentive Plan that Includes Nonfinancial Performance Measures. *The Accounting Review* 75(1) : 65-92.
- *Lipe, M. G. and S. E. Salterio. 2000. The Balanced Scorecard : Judgmental Effects of Common and Unique Performance Measures. *The Accounting Review* 75(3) : 283-298.

2001 年

- Luft, J. L. and M. D. Shields. 2001. Why Does Fixation Persist?: Experimental Evidence on the Judgment Performance Effects of Expensing Intangibles. *The Accounting Review* 76(4) : 561-587.

2003 年

- *Ittner, C. D., D. F. Larcker and M. W. Meyer. 2003. Subjectivity and the Weighting of Performance Measures : Evidence from a Balanced Scorecard. *The Accounting Review* 78(3) : 725-758.

2004 年

- *Banker, R. D., H. Chang and M. J. Pizzini. 2004. The Balanced Scorecard : Judgmental Effects of Performance Measures Linked to Strategy. *The Accounting Review* 79(1) : 1-23.
- Gibbs, M., K. A. Merchant, W. A. van der Stede and M. E. Vargus. 2004. Determinants and Effects of Subjectivity in

Incentives. *The Accounting Review* 79(2) : 409–436.

- *Libby, T., S. E. Salterio and A. Webb. 2004. The Balanced Scorecard : The Effects of Assurance and Process Accountability on Managerial Judgment. *The Accounting Review* 79(4) : 1075–1094.

2007 年

Sandino, T. 2007. Introducing the First Management Control Systems : Evidence from the Retail Sector. *The Accounting Review* 82(1) : 265–293.

2008 年

Kobelsky, K. W., V. J. Richardson, R. E. Smith and R. W. Zmud. 2008. Determinants and Consequences of Firm Information Technology Budgets. *The Accounting Review* 83(4) : 957–995.

2010 年

Ahn, T. S., I. Hwang and M.-I. Kim. 2010. The Impact of Performance Measure Discriminability on Ratee Incentives. *The Accounting Review* 85(2) : 389–417.

Kachelmeier, S. J. and M. G. Williamson. 2010. Attracting Creativity : The Initial and Aggregate Effects of Contract Selection on Creativity-Weighted Productivity. *The Accounting Review* 85(5) : 1669–1691.

- *Tayler, W. B. 2010. The Balanced Scorecard as a Strategy-Evaluation Tool : The Effects of Implementation Involvement and a Causal-Chain Focus. *The Accounting Review* 85(3) : 1095–1117.

実務雑誌

Journal of Cost Management

1992 年

- *Maisel, L. S. 1992. Performance Measurement : The Balanced Scorecard Approach. *Journal of Cost Management* 6(2) : 47–52.

1994 年

Curtis, C. C. 1994. Nonfinancial Performance Measures in New Product Development. *Journal of Cost Management* 8(3) : 18–26.

- *Hoffecker, J. and Goldenberg, C. 1994. Using the Balanced Scorecard to Develop Company-wide Performance Measures. *Journal of Cost Management* 8(3) : 5–17.

1996 年

MacArthur, J. B. 1996. Performance Measures that Count : Monitoring Variables of Strategic Importance. *Journal of Cost Management* 10(3) : 39–45.

1997 年

- *Curtis, C. C. and L. W. Ellis. 1997. Balanced Scorecards for New Product Development. *Journal of Cost Management* 11(3) : 12–18.

- *Epstein, M. J. and M.-J. Roy, 1997, Environmental Management to Improve Corporate Profitability. *Journal of Cost Management* 11(6) : 26–34.

Evans III, J. H., Y. Hwang and N. J. Nagarajan. 1997. Cost Reduction and Process Reengineering in Hospitals. *Journal of Cost Management* 11(3) : 30–37.

- *Hribar, P., R. M. Lindsay and A. R. Loustel. Weyerhaeuser's Integrated Performance Measurement. *Journal of Cost Management* 11(3) : 36–40.

1998 年

- Kershaw, R. and S. Mahenthiran. 1998. Business Process Change and the Role of the Management Accountant. *Journal of Cost Management* 12(2) : 31–38.

2000 年

- *Dion, K. R. 2000. Measuring Intangible Assets : The Internal Perspective. *Journal of Cost Management* (14) 3 : 35–40.
- *Syfert, P. A. and L. B. Schumacher. 2000. Putting Strategy First in Performance Management. *Journal of Cost Management* 14(6) : 32–38.
- *Thor, C. G. 2000. The Evolution of Performance Measurement in Government. *Journal of Cost Management* 14 (3) : 18–26.

2001 年

- *Hornsby, D. D. and S. Baxendale. 2001. Building a Balanced Scorecard for Entrepreneurs. *Journal of Cost Management* 15(6) : 33–38.
- *Kaplan, R. S. and V. G. Narayanan. 2001. Measuring and Managing Customer Profitability. *Journal of Cost Management* 15(5) : 5–15.
- *Niven, P. R. 2001. Examining the Endurance of the Balanced Scorecard. *Journal of Cost Management* 15(3) : 18–24.
- Poage, J. L. 2001. Developing Actionable Performance Measures for Government Programs. *Journal of Cost Management* 15(2) : 12–20.
- *Schneiderman, A. M. 2001. The First Balanced Scorecard : Analog Devices, 1986–1988. *Journal of Cost Management* 15(5) : 16–26.
- *Sharma, U. and Z. Hoque. 2001. Implementing the Balanced Scorecard in Government : The Housing Authority of Fiji. *Journal of Cost Management* 15(4) : 37–41.
- *Whitaker, D. A. 2001. Mapping the Balanced Scorecard to the Baldrige and President's Quality Award Criteria. *Journal of Cost Management* 15(3) : 25–29.

2002 年

- Schonberger, R. J. 2002. Open-Book Management : Less than Meets the eye. *Journal of Cost Management* 16(1) : 12–17.

2003 年

- *Brewton, J. and W. Schiemann. 2003. Measurement : The Missing Ingredient in Today's CRM Strategies. *Journal of Cost Management* 17(1) : 5–14.
- *Lyons, B., Gumbus, A. and D. E. Bellhouse. Aligning Capital Investment Decisions with the Balanced Scorecard. *Journal of Cost Management* 17(2) : 34–38.
- *Thor, C. G. 2003. How to Find, Select, and Display Performance Measures in Government. *Journal of Cost Management* 17(3) : 31–38.

2004 年

- *Feuss, W. J., J. Harmon, J. Wirtenberg and J. W. Wides. 2004. Linking Employees, Customers, and Financial Performance in Organizations. *Journal of Cost Management* 18(1) : 12–22.
- *Gumbus, A., B. Lyons and T. Wilson. 2004. Designing a Strategy to Effectively Communicate the Balanced Scorecard. *Journal of Cost Management* 18(2) : 35–38.
- Kershaw, R. 2004. Measuring Performance during Economic Slowdowns. *Journal of Cost Management* 18(5) : 31–

37.

- *Kittredge, J. 2004. Process Management and Cost Management : Collaboration or Opposition?. *Journal of Cost Management* 18(5) : 23–30.
- *Nathan, K. and S. Pelfrey. 2004. Strong Medicine for Failing Hospitals : A Balanced Scorecard Approach, *Journal of Cost Management* 18(1) : 24–30.

2005 年

- *Brewer, P. C., S. Davis and T. Albright. 2005. Building a Successful Balanced Scorecard Program. *Journal of Cost Management* 19(1) : 28–37.
- *Bush, P. 2005. Strategic Performance Management in Government : Using the Balanced Scorecard. *Journal of Cost Management* 19(3) : 24–31.
- *Liedtka, S. L. 2005. Analytic Hierarchy Process and Multi-Criteria Performance Management Systems. *Journal of Cost Management* 19(6) : 30–38.

2006 年

- *Beiman, I. 2006. Using the Balanced Scorecard Methodology to Execute China Strategy. *Journal of Cost Management* 20(4) : 9–19.
- *Dhingra, A. H. 2006. Executing Strategy in the Financial Services Industry : The Key to Competitive Advantage. *Journal of Cost Management* 20(4) : 31–39.
- *Grasso, L. P. 2006. Barriers to Lean Accounting. *Journal of Cost Management* 20(2) : 6–19.
- *Nagumo, T. and B. S. Donlon. 2006. Integrating the Balanced Scorecard and COSO ERM Frameworks. *Journal of Cost Management* 20(4) : 20–30.
- *Shenkir, W. G. and P. L. Walker. 2006. Enterprise Risk Management and the Strategy-Risk-Focused Organization. *Journal of Cost Management* 20(3) : 32–38.
- *Weiser, J. R. 2006. Drive Strategy Execution through Strategy Focused Governance. *Journal of Cost Management* 20(4) : 40–47.

2007 年

- *Theriou, N. G., G. N. Theriou and A. Papadopoulos. 2007. Integrating the Balanced Scorecard and Activity-Based Costing. *Journal of Cost Management* 21(3) : 42–48.

2008 年

- Neumann, B. R., M. L. Roberts and E. Cauvin. 2008. Financial and Nonfinancial Performance Measures. *Journal of Cost Management* 22(6) : 5–14.

2009 年

- Balachandran, B. V., K. Kantamneni and M. Pal. 2009. Performance Metrics Maturity Model : Strategy Aligned Integrated Linked Scorecard System. *Journal of Cost Management* 23(6) : 5–14.
- *McNair, C. J. and T. Watts. 2009. The Integration of Balanced Scorecard Models. *Journal of Cost Management* 23(6) : 5–12.
- Schiemann, W. and J. Brewton. 2009. Functional Lean : A New Approach for Optimizing Internal Service Function Value. *Journal of Cost Management* 23(4) : 5–14.

2010 年

- Hujsak, J. 2010. Sustainability Globalization and Pragmatism. *Journal of Cost Management* 24(2) : 16–23.
- *Joshi, S. and R. Krishnan. 2010. Sustainability Accounting Systems with a Managerial Decision Focus, *Journal of*

Cost Management 24(6) : 20-30.

Shepherd, N. 2010. The CFO as a Business Partner. *Journal of Cost Management* 24(3) : 30-38.

Velmurgan, M. S. and W. N. A. B. W. Nahar. 2010. Factors Determining the Success or Failure of ABC Implementation. *Journal of Cost Management* 19(5) : 35-46.

Institute of Management Accountants (*Management Accounting, Management Accounting Quarterly, Strategic Finance*)

1992 年

Eccles, R. G. and P. J. Pyburn. 1992. Creating a Comprehensive System to Measure Performance. *Management Accounting* 73(8) : 41-45.

1995 年

Vitale, M. R. and S. C. Mavrinac. 1995. How Effective is your Performance Measurement System?. *Management Accounting* 77(4) : 43-47.

1997 年

*Chow, C. W., K. M. Haddad and J. E. Williamson. 1997. Applying the Balanced Scorecard to Small Companies. *Management Accounting* 79(2) : 41-45.

*Clinton, B. D. and K. C. Hsu. 1997. JIT and the Balanced Scorecard: Linking Manufacturing Control to Management Control. *Management Accounting* 79(3) : 18-24.

*Epstein, M. J. and J. F. Manzoni. 1997. The Balanced Scorecard and Tableau de Bord: Translating Strategy into Action. *Management Accounting* 79(2) : 28-36.

1998 年

Hertenstein, J. H. and M. B. Platt. 1998. Why Product Development Teams Need Management Accountants. *Management Accounting* 79(10) : 50-55.

*Silk, S. 1998. Automating the Balanced Scorecard. *Management Accounting* 79(11) : 38-44.

Stivers, B. P., T. J. Covin, N. G. Hall and S. W. Smalt. 1998. How Nonfinancial Performance Measures are Used. *Management Accounting* 79(8) : 44-49.

*Tatikonda, L. U. and R. J. Tatikonda. 1998. We need Dynamic Performance Measures. *Management Accounting* 80(3) : 49-53.

1999 年

*Forsythe, R. 1999. Implementing ABC and the Balanced Scorecard at a Publishing House. *Management Accounting Quarterly* 1(1) : 1-9.

2000 年

*Frigo, M. L. and K. R. Krumwiede. The Balanced Scorecard: A Winning Performance Measurement System. *Strategic Finance* 81(3) : 50-54.

Rao, M. P. 2000. A Simple Method to Link Productivity to Profitability. *Management Accounting Quarterly* 1(4) : 12-17.

2001 年

*Kershaw, R. and S. Kershaw. 2001. Developing a Balanced Scorecard to Implement Strategy at St. Elsewhere Hospital. *Management Accounting Quarterly* 3(2) : 28-35.

2002 年

- *Brewer, P. 2002. Putting Strategy into the Balanced Scorecard. *Strategic Finance* 83(7) : 44-52.
- *Clinton, D., S. A. Webber and J. M. Hassell. 2002. Implementing the Balanced Scorecard Using the Analytic Hierarchy Process. *Management Accounting Quarterly* 3(3) : 1-11.
- *Frigo, M. L. 2002. Strategy and the Balanced Scorecard. *Strategic Finance* 84(5) : 6-9.
- *Green, M., J. Garrity, A. Gumbus and B. Lyons. 2002. Pitney Bowes Calls for New Metrics. *Strategic Finance* 83(11) : 30-35.
- *Gumbus, A. and B. Lyons. 2002. The Balanced Scorecard at Philips Electronics. *Strategic Finance* 84(5) : 45-49.
- *Gumbus, A., B. Lyons and D. E. Bellhouse. 2002. Journey to Destination 2005 : How Bridgeport Hospital is Using the Balanced Scorecard to Map its Course. *Strategic Finance* 84(2) : 46-50.

2003 年

- *Gumbus, A. and S. D. Johnson. 2003. The Balanced Scorecard at Future Industries : Relentless Commitment to Employees Results in Company Success. *Strategic Finance* 85(1) : 36-41.
- *Jalbert, T. and S. Landry. 2003. Which Performance Measurement is Best for Your Company?. *Management Accounting Quarterly* 4(3) : 32-41.
- *McNelis, K. and G. Whitsett. 2003. The Visual Scorecard. *Management Accounting Quarterly* 5(1) : 17-21.
- *McWhorter, L. B. 2003. Does the Balanced Scorecard Reduce Information Overload?. *Management Accounting Quarterly* 4(4) : 24-27.
- *Pineno, C. J. and C. R. Cristini. 2003. The Balanced Scorecard : A Vision Report Card. *Management Accounting Quarterly* 4(4) : 28-40.

2004 年

- *Epstein, M. J. and M.-J. Roy. 2004. How Does Your Board Rate?. *Strategic Finance* 85(8) : 24-31.
- Frigo, M. L. 2004. Strategy and Execution : A Continual Process. *Strategic Finance* 85(10) : 7-21.
- *Lyons, B. and A. Gumbus. 2004. How Unilever HPC-NA Sold its Employees on the Balanced Scorecard. *Strategic Finance* 85(10) : 40-44.
- *Pineno, C. J. 2004. Balanced Scorecard Applications and Model Building : A Survey and Comparison of the Manufactured Homes and Motor Homes Industries. *Management Accounting Quarterly* 6(1) : 21-28.
- *Searcy, D. L. 2004. Aligning the Balanced Scorecard and a Firm's Strategy Using the Analytic Hierarchy Process. *Management Accounting Quarterly* 5(4) : 1-10.

2005 年

- *Epstein, M. J. and A. Rejc. 2005. How to Measure and Improve the Value of IT. *Strategic Finance* 87(4) : 35-41.
- *Holmen, J. 2005. Intellectual Capital Reporting. *Management Accounting Quarterly* 6(4) : 1-9.
- *Hughes, S. B., C. B. Caldwell, K. A. P. Gjerde and P. J. Rouse. 2005. How Groups Produce Higher-Quality Balanced Scorecards than Individuals. *Management Accounting Quarterly* 6(4) : 34-44.
- *Joseph, G. and A. George. 2005. Merging Management Accounting with Database Design. *Management Accounting Quarterly* 6(2) : 34-43.
- *Paladino, R. E. 2005. Balanced Forecasts Drive Value. *Strategic Finance* 86(7) : 37-42.
- *Pforsich, H. 2005. Does Your Scorecard Needs a Workshop?: BSA and CSA : Merging Mutual Complements. *Strategic Finance* 86(8) : 31-35.
- *White, G. B. 2005. How to Report a Company's Sustainability Activities. *Management Accounting Quarterly* 7(1) : 36-43.

2006 年

- *Beasley, M., A. Chen, K. Nunez and L. Wright. 2006. Working Hand in Hand: Balanced Scorecards and Enterprise Risk Management. *Strategic Finance* 87(9) : 49-55.
- *Bible, L., S. Kerr and M. Zanini. 2006. The Balanced Scorecard: Here and Back. *Management Accounting Quarterly* 7(4) : 19-23.
- Chow, C. W. and W. A. van der Stede. 2006. The Use and Usefulness of Nonfinancial Performance Measures. *Management Accounting Quarterly* 7(3) : 1-8.
- *DeBusk, G. and A. D. Crabtree. 2006. Does the Balanced Scorecard Improve Performance?. *Management Accounting Quarterly* 8(1) : 44-48.
- Joseph, G. 2006. Understanding Management Accounting Techniques in the Context of Organizational Change. *Management Accounting Quarterly* 7(4) : 24-32.
- Schuster, P. and V. O'Connell. 2006. The Trend Toward Voluntary Corporate Disclosures. *Management Accounting Quarterly* 7(2) : 1-9.

2007 年

- *K. A. P. Gjerde and S. B. Hughes. 2007. Tracking Performance: When Less is More. *Management Accounting Quarterly* 9(1) : 1-12.
- Rao, M. 2007. From a Black Hole to a Hole-in-One. *Management Accounting Quarterly* 8(2) : 32-46.

2009 年

- *Chen, C. C. and K. Jones. 2009. Are Employees Buying the Balanced Scorecard?. *Management Accounting Quarterly* 11(1) : 36-44.

2010 年

- Ballou, B., D. L. Heitger and T. D. Schultz. 2010. The Actions-to-Value Framework: Linking Managerial Behavior to Organizational Value. *Management Accounting Quarterly* 11(4) : 1-9.
- *Biggart, T. B., L. L. Burney, R. Flanagan and W. Harden. 2010. Is a Balanced Scorecard Useful in a Competitive Retail Environment?. *Management Accounting Quarterly* 12(1) : 1-12.
- *Cheffi, W., A. Rao and A. Beldi. 2010. Designing a Performance Measurement System: Accountants and Managers Diverge. *Management Accounting Quarterly* 11(3) : 8-21.
- *Gates, S. and C. Germain. 2010. Integrating Sustainability Measures into Strategic Performance Measurement Systems: An Empirical Study. *Management Accounting Quarterly* 11(3) : 1-7.

Chartered Institute of Management Accountants (Management Accounting/Financial Management)

1992 年

- *Hazell, M. and M. Morrow. 1992. Performance Measurement and Benchmarking. *Management Accounting* 70(11) : 44-45.

1993 年

- Bhimani, A. 1993. Performance Measures in UK Manufacturing Companies: The State of Play. *Management Accounting* 71(11) : 20-22.
- Bull, R. 1993. A Window on Performance Management. *Management Accounting* 71(4) : 28-30.

1995 年

- *Newing, R. 1995. Wake up to the Balanced Scorecard!. *Management Accounting* 73(3) : 22-23.

1996 年

- *Binnarsley, M. 1996. Do You Measure up?. *Management Accounting* 74(10) : 32-34.
- *Booth, R. 1996a. Accountants Do it by Proxy. *Management Accounting* 74(5) : 46.
- *Booth, R. 1996b. The Blue Sky and the Brown Field. *Management Accounting* 74(8) : 16.
- *Evans, H., G. Ashworth, J. Gooch and R. Davies. 1996. Who Needs Performance Management?. *Management Accounting* 4(11) : 20-25.

1997 年

- *Booth, R. 1997. Performance Management : Making it Happen. *Management Accounting* 75(10) : 28-30.
- Dugdale, D. and C. Jones. 1997. Accounting for Throughput : Techniques for Performance Measurement, Decisions and Control. *Management Accounting* 75(11) : 52-56.
- *Smith, M. 1997a. Innovation Drivers for Competitive Advantage. *Management Accounting* 75(1) : 60-61.
- *Smith, M. 1997b. Putting NFLs to Work in a Balanced Scorecard Environment. *Management Accounting* 75(3) : 32-35.

1998 年

- *McCunn, P. 1998. The Balanced Scorecard...the Eleventh Commandment. *Management Accounting* 76(11) : 34-36.
- Porter, L., J. Oakland and K. Gadd. 1998. Unlocking Business Performance with Self-Assessment. *Management Accounting* 76(8) : 35-37.
- Smith, M. 1998a. Innovation and the Great ABM Trade-off. *Management Accounting* 76(1) : 24-26.
- *Smith, M. 1998b. Measuring Organisational Effectiveness. *Management Accounting* 76(9) : 34-36.

1999 年

- Brown, G. J. Innes and N. Tagoe. 1999. Performance Measurement in a Telephone Call Centre. *Management Accounting* 77(1) : 41-42.
- McLaren, J. 1999. A Strategic Perspective on Economic Value Added. *Management Accounting* 77(4) : 30-32.

2000 年

- *Gering, M. and K. Rosmarin. 2000. Central Beating. *Management Accounting* 78(6) : 32-33.
- *McCann, M. 2000. Turning Vision into Real. *Management Accounting* 78(1) : 36-37.
- *Prendergast, P. 2000. Budget Hit back. *Management Accounting* 78(1) : 14-16.
- *Roslender, R. 2000. Accounting for Intellectual Capital : A Contemporary Management Accounting Perspective. *Management Accounting* 78(3) : 34-37.

2001 年

- *Marr, B. 2001. Scored for Life. *Financial Management* 79(4) : 30.
- *Mendoza, C. and R. Zrihen. 2001. Measuring up. *Financial Management* 79(4) : 26-29.

2002 年

- *Bourne, M. and A. Neely. 2002. Cause and Effect. *Financial Management* 80(8) : 30-31.
- *Woodley, P. 2002. Ship Shape. *Financial Management* 80(6) : 30-31.

2005 年

- *Smith, M. 2005. The Balanced Scorecard. *Financial Management* 83(2) : 27-28.

2006 年

*Likierman, A. 2006. The Balanced Scorecard. *Financial Management* 84(10) : 29–31.

2009 年

Baldvinsdottir, G., J. Burns, H. Nørreklit and R. Scapens. 2009. The Management Accountant's Role. *Financial Management* 87(8) : 33–34.

*Ye, L. and W. Seal. 2009. The Balanced Scorecard. *Financial Management* 87(8) : 27–28.